6号室　ガス設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合　屋外架空・暗渠 15A	1	m			
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合　地中配管 15A	3	m			
【配管附属品】						
可とう管	15A	1	個			
ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
2口ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0058
土工事		1	式			別紙 00-0059
計						

6号室	換気設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【ダクト工事】						
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ (低圧ﾀﾞｸﾄ)	100mm	1	m			
ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ	ｽﾃﾝﾚｽ製　100φ	1	個			
【その他工事】						
はつり補修		1	式			別紙 00-0060
計						

6号室		撤去工事				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0061
計						

6号室　発生材処理

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
計						

7号室		衛生器具設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
洗濯機ﾊﾟﾝ	PWP460N2W、PJ001	1	組			
混合水栓	TKS05310J	1	個			
大便器 取外し	ﾀﾝｸ式　再使用する	1	組			
計						

7号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
給水・耐衝撃性ﾎﾟﾘ塩ﾋﾞ管(HIVP)改修	屋内一般　16A	1	m			
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PEX)	13A	1	m			
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PEX)	16A	3	m			
ｴﾙﾎﾞ	13A	1	個			
ｴﾙﾎﾞ	16A	3	個			
ﾁｰｽﾞ	16A	1	個			
ｽﾄﾚｰﾄ水栓用継手		1	個			
【水栓類】						
洗濯機用水栓	TW11R	1	個			
【配管附属品】						
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	SUS　15A×300L	1	個			
CV付止水栓	15A	1	個			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0064
計						

7号室		排水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)改修	屋内一般　50A	2	m			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0065
計						

7号室　給湯設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【機器】						
ガス給湯器 WHG-1	16号　壁掛形 ﾘﾓｺﾝ,ﾘﾓｺﾝｺｰﾄﾞ,配管ｶﾊﾞｰ他附属品共	1	台			
【配管工事】						
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管 (PEX)	16A	14	m			
ｴﾙﾎﾞ	16A	9	個			
ﾁｰｽﾞ	16A	2	個			
【配管附属品】						
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	SUS　15A×300L	1	個			
【その他工事】						
はつり補修		1	式			別紙 00-0066
計						

7号室　ガス設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合　地中配管 15A	3	m			
【配管附属品】						
可とう管	15A	1	個			
ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
2口ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0067
土工事		1	式			別紙 00-0068
計						

7号室	換気設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【ダクト工事】						
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ (低圧ﾀﾞｸﾄ)	100mm	1	m			
ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ	ｽﾃﾝﾚｽ製　100φ	1	個			
【その他工事】						
はつり補修		1	式			別紙 00-0069
計						

7号室		撤去工事				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0070
計						

9号室　衛生器具設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
洗濯機ﾊﾟﾝ	PWP460N2W、PJ001	1	組			
混合水栓	TKS05310J	1	個			
大便器 取外し	ﾀﾝｸ式　再使用する	1	組			
計						

9号室	給水設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PEX)	13A	3	m			
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PEX)	16A	2	m			
ｴﾙﾎﾞ	13A	3	個			
ｴﾙﾎﾞ	16A	2	個			
ｽﾄﾚｰﾄ水栓用継手		1	個			
【水栓類】						
洗濯機用水栓	TW11R	1	個			
【配管附属品】						
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	SUS　15A×300L	1	個			
CV付止水栓	15A	1	個			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0073
計						

9号室		排水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)改修	屋内一般　50A	2	m			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0074
計						

9号室　給湯設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【機器】						
ガス給湯器 WHG-1	16号　壁掛形 ﾘﾓｺﾝ,ﾘﾓｺﾝｺｰﾄﾞ,配管ｶﾊﾞｰ他附属品共	1	台			
【配管工事】						
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管 (PEX)	16A	14	m			
ｴﾙﾎﾞ	16A	9	個			
ﾁｰｽﾞ	16A	2	個			
【配管附属品】						
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	SUS　15A×300L	1	個			
【その他工事】						
はつり補修		1	式			別紙 00-0075
計						

9号室　ガス設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【配管工事】						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合　地中配管 15A	3	m			
【配管附属品】						
可とう管	15A	1	個			
ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
2口ｶﾞｽｺｯｸ	15A	1	個			
【その他工事】						
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0076
土工事		1	式			別紙 00-0077
計						

9号室	換気設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
【機器】						
換気扇	一般形　連動式ｼｬｯﾀｰ 250φ	1	台			
【ダクト工事】						
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ (低圧ﾀﾞｸﾄ)	100mm	1	m			
ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ	ｽﾃﾝﾚｽ製　100φ	1	個			
【その他工事】						
はつり補修		1	式			別紙 00-0078
計						

9号室		撤去工事				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0079
計						

発生材処分　発生材処理

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 DID区間無し　16.0km以下	0.3	m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　陶磁器くず DID区間無し　16.0km以下	0.1	m3			
発生材処分費	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	0.3	m3			
発生材処分費	陶磁器くず	0.1	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ控除	H1	0.1	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ控除	H2	0.1	t			
計						

1号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0003
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

2号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0019
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

5号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0021
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

5号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁	5，7，9号室前	1	式			別紙 00-0009
根切り	人力土工 〃 〃	0.6	m3			
床付け	つぼ，布掘り	0.7	㎡			
埋戻し	人力土工　〃 〃	0.4	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.1	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積	C種	1	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.01	t			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D13	0.01	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
型枠	普通合板型枠 〃　基礎部 〃	1.3	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	1.3	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=21　S15 粗骨材20　捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	0.03	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S15 粗骨材20　基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.03	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.1	m3			
笠木ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて　糸幅100	0.8	m			

5号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁	5，7，9号室前	1	式			別紙 00-0009
計						

6号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0020
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

7号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0022
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

7号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁		1	式			別紙 00-0024
根切り	人力土工 〃 〃	0.6	m3			
床付け	つぼ,布掘り	0.7	㎡			
埋戻し	人力土工　〃 〃	0.4	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.1	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積	C種	1	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.01	t			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D13	0.01	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
型枠	普通合板型枠 〃　基礎部 〃	1.3	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	1.3	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=21　S15 粗骨材20　捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	0.03	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S15 粗骨材20　基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.03	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.1	m3			
笠木ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 糸幅100	0.8	m			

7号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁		1	式			別紙 00-0024
計						

9号室	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ新設		1	式			別紙 00-0025
根切り	人力土工 〃 〃	0.5	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	2.3	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.02	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 〃　　〃	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　　S15 粗骨材20	0.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設	0.3	m3			
計						

9号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
屋外ｽﾛｰﾌﾟ新設		1	式			別紙 00-0026
根切り	人力土工 － －	2.4	m3			
床付け	つぼ,布掘り	5	㎡			
砂利地業	再生切込砕石	0.5	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.1	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 －　　－	0.1	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.1	t			
型枠	普通合板型枠 －　　基礎部 －	4.6	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	4.6	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=21　S15 粗骨材20　捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	0.1	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S15 粗骨材20　基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	1	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S15 粗骨材20　土間ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.6	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.6	m3			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え		2.4	㎡			

9号室	屋外付帯工事			改修		
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
屋外ｽﾛｰﾌﾟ新設		1	式			別紙 00-0026
ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き		2.3	㎡			
計						

9号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁		1	式			別紙 00-0027
根切り	人力土工 － －	0.6	m3			
床付け	つぼ,布掘り	0.7	㎡			
埋戻し	人力土工　－ －	0.4	m3			
砂利地業	再生切込砕石	0.1	m3			
発生残土	※処分費は別途計上					
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積	C種	1	㎡			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.01	t			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D13	0.01	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 －　－	0.02	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.02	t			
型枠	普通合板型枠 －　基礎部 －	1.3	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	1.3	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=21　S15 粗骨材20　捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	0.03	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S15 粗骨材20　基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.03	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	0.1	m3			
笠木ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 糸幅100	0.8	m			

9号室	屋外付帯工事			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ隔壁		1	式			別紙 00-0027
計						

1号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0028
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0029
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

1号室		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0030
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

1号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0031
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150㎜　50㎜	2	か所			
計						

1号室		ガス設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0032
配管分岐 (鋼管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0033
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

1号室		換気設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0034
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

1号室	撤去工事					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0035
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
ﾊﾞﾗﾝｽ窯 撤去		1	個			
(給水設備)						
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	2	か所			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

2号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0038
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						

2号室		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0039
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

2号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0040
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150㎜　50㎜	2	か所			
計						

2号室	換気設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0041
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

2号室	撤去工事					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0042
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
混合水栓 撤去		1	個			
(給水設備)						
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管 撤去	13A	4	m			
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	2	か所			
(給湯設備)						
架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管 撤去	13A	2	m			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

5号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0045
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						

5号室		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0046
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

5号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0047
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150㎜　50㎜	2	か所			
計						

5号室		ガス設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0048
配管分岐 (鋼管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0049
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

5号室		換気設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0050
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

5号室	撤去工事					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0051
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
ﾊﾞﾗﾝｽ窯 撤去		1	個			
(給水設備)						
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	2	か所			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

6号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0054
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0055
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

6号室		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0056
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

6号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0057
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150㎜　50㎜	2	か所			
計						

6号室		ガス設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0058
配管分岐 (鋼管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0059
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

6号室		換気設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0060
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

6号室		撤去工事				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0061
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
ﾊﾞﾗﾝｽ窯 撤去		1	個			
(給水設備)						
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	2	か所			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

7号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0064
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						

7号室		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0065
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

7号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0066
機械はつり(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口)	100～150mm　50mm	1	か所			
機械はつり(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口)	100～150mm 100mm	1	か所			
計						

7号室		ガス設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0067
配管分岐 (鋼管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0068
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

7号室		換気設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0069
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

7号室	撤去工事					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0070
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
ﾊﾞﾗﾝｽ窯 撤去		1	個			
(給水設備)						
給水・水道用硬質 ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管 撤去	屋内一般　16A	1	m			
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	2	か所			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

9号室		給水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0073
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温有	3	か所			
計						

9号室		排水設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0074
配管分岐 (樹脂管類) ・手間のみ	配管分岐　50A 保温無	1	か所			
計						

9号室		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0075
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150㎜　50㎜	2	か所			
計						

9号室		ガス設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
既設管切断接続工事		1	式			別紙 00-0076
配管分岐 (鋼管類) ・手間のみ	配管分岐　15A 保温無	2	か所			
計						
土工事		1	式			別紙 00-0077
根切り(機械)	ﾊﾞｯｸﾎｳ 0.13m3 排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型	1	m3			
計						

9号室		換気設備				
名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　　額	備　　考
はつり補修		1	式			別紙 00-0078
機械はつり（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口）	100～150mm 125mm	1	か所			
計						

9号室　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去工事		1	式			別紙 00-0079
(衛生器具設備)						
洗面化粧台撤去	再使用しない	1	組			
鏡撤去	再使用しない	1	枚			
ﾊﾞﾗﾝｽ窯 撤去		1	個			
(給水設備)						
水栓柱 撤去		1	個			
水栓 撤去		3	個			
LBﾎｰｽｶﾗﾝ 撤去		1	個			
(排水設備)						
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ 撤去	T5A　50A	1	個			
洗濯排水金物 撤去		1	個			
配管切断 (樹脂管類) ・手間のみ	配管切断　50A 保温無	1	か所			
(ガス設備)						
ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ・配管用 炭素鋼鋼管(白) 撤去	ねじ接合　　屋内一般 20A	3	m			
ｶﾞｽｺｯｸ　撤去		2	個			
配管切断 (鋼管類) ・手間のみ	配管切断　20A 保温無	1	か所			
計						

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化工事

設計図

図　面　リ　ス　ト

意匠図				電気設備図				機械設備図			
図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名
A-001	図面リスト	A-041	建具位置図・建具表（改修後）	E-001	特記仕様書			M-001	特記仕様書		
A-002	特記仕様書１	A-042	1号棟　天井伏図（改修前・改修後）	E-002	配置図			M-002	機器表・配置図		
A-003	特記仕様書２	A-043	2号棟　天井伏図（改修前・改修後）	E-003	1号棟　電気設備平面詳細図（改修前・後）			M-003	1号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修前）		
A-004	特記仕様書３	A-044	3号棟　天井伏図（改修前・改修後）	E-004	2号棟　電気設備平面詳細図（改修前・後）			M-004	1号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修後）		
A-005	特記仕様書４	A-045	4号棟　天井伏図（改修前・改修後）	E-005	3号棟　電気設備平面詳細図（改修前・後）			M-005	2号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修前）		
A-006	特記仕様書５	A-046	5号室　展開図（改修前）	E-006	4号棟　電気設備平面詳細図（改修前・後）			M-006	2号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修後）		
A-007	改修特記仕様書１	A-047	5号室　展開図（改修後）					M-007	3号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修前）		
A-008	改修特記仕様書２	A-048	7号室　展開図（改修前）					M-008	3号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修後）		
A-009	改修特記仕様書３	A-049	7号室　展開図（改修後）					M-009	4号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修前）		
A-010	改修特記仕様書４	A-050	9号室　展開図（改修前）					M-010	4号棟　衛生設備　平面詳細図・立面図（改修後）		
A-011	シーリング特記仕様書	A-051	9号室　展開図（改修後）					M-011	換気設備　平面詳細図・立面図		
A-012	附近見取図										
A-013	配置図										
A-014	仕上表										
A-015	平面図・立面図										
A-016	1号棟　平面詳細図・立面図（改修前）										
A-017	1号棟　平面詳細図・立面図（改修後）										
A-018	2号棟　平面詳細図・立面図（改修前）										
A-019	2号棟　平面詳細図・立面図（改修後）										
A-020	3号棟　平面詳細図・立面図（改修前）										
A-021	3号棟　平面詳細図・立面図（改修後）										
A-022	4号棟　平面詳細図・立面図（改修前）										
A-023	4号棟　平面詳細図・立面図（改修後）										
A-024	U.B詳細図1										
A-025	U.B詳細図2										
A-026	キッチン詳細図・洗面化粧台詳細図										
A-027	断面詳細図										
A-028	各部詳細図1										
A-029	各部詳細図2										
A-030	各部詳細図3										
A-031	各部詳細図4										
A-032	各部詳細図5										
A-033	基礎伏図1										
A-034	基礎伏図2										
A-035	床改修図										
A-036	床梁部品図										
A-037	内装接合詳細図										
A-038	内装部品図1										
A-039	内装部品図2										
A-040	建具位置図・建具表（改修前）										

加東市役所
〒673-1493　兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301（代表）

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図

図面リスト

作図年月日：'22.8

縮尺：-　A3縮小　-

承認	承認	担当	担当	担当

物件番号：22023

図面番号：A－001

建　築　概　要

⊙	工事名称	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化工事
⊙	工事場所	兵庫県加東市平木1290番地
⊙	用途地域	・　1種低層住専　・　2種低層住専　・　1種中高層住専　・　2種中高層住専 ・1種住居　・　2種住居・　準住居　・　近隣商業　・　商業　・　準工業　・　工業　・　工業専用 ⊙　指定なし ・　都市公園
⊙	防火地域	・　防火　・　準防火　・　22条地域　・　路線防火　⊙　指定なし
⊙	その他の地域、地区	都市計画　・　市街化　・　市街化調整　・　区域外　⊙　区域区分非設定 特別用途　・　・　⊙　指定なし 高度地区　・　第　種高度・　⊙　指定なし 日影規制　5mライン：　時間　，10mライン：　時間　，測定面レベル：　m その他・　風致　・　宅造規制　・　附置義務駐車場　・　土地区画整理　・　壁面線の指定
・	容積率、建ぺい率	許容容積率　　%　，　許容建ぺい率　　%
⊙	建築概要	敷地面積　－　m²，都市計画道路　・　有　⊙　無 建築面積　432.76　m²，建ぺい率　－　% 延床面積　432.76　m²，容積率　－　%

棟　数　4　棟

建物名称	1号棟	2号棟	3号棟	4号棟
用　途	集合住宅	集合住宅	集合住宅	集合住宅
構　造	PC造	PC造	PC造	PC造
階　数（階）	1	1	1	1
建築面積（m²）	108.19	108.19	108.19	108.19
延床面積（m²）	108.19	108.19	108.19	108.19

備　考：

⊙	工事範囲	⊙ 1，2，6号室　ユニットバス及び化粧洗面台改修工事 ⊙ 5，7，9号室　全リフォーム+ユニットバス改修工事
・	別途工事	
・	注記	

第１章　一般共通事項

※	適用	図面、特記仕様書及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない 事項で本工事に関連ある事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事標準仕様書 （平成　最新　年版）（以下「標仕」と言う）による。
		注）本工事範囲に於いて施工する空調設備工事、機械設備工事、電気設備工事は各工事特記仕 様書及び指定共通仕様書による。 改修部分については、建築改修工事特記仕様書によるものとする。　＜別紙参照＞
※	本特記仕様書の 取扱い方	本特記仕様書の取扱いについては、項目欄は※　印および　◉　印のついたものを適用する。 また、特記事項欄は◉印をつけたもの　◉　印のない場合は※　印）を適用し◉と　㊛　のある場合 は共に適用する。
※	優先順位	設計図書の優先順位は下記による。 1．現場説明に対する質問回答書　　2．現場説明書 3．特記仕様書　　4．図面　　5．標仕
※	建築材料等	建築材料の製造所、製品及び施工業者は、特記されたもの、または同等品以上とする、ただし 同等以上とする場合は監督職員の承諾を受けること。
※	特殊な材料の工法	標仕に記載されていない特殊な工法は、監督職員の承諾をうけて当該製品の指定工法による。
※	設備工事との取合い	設備工事に関連するコンクリート部分の貫通孔、開口部、箱入、スリーブ等の補強及びその他 壁、天井のボード類の切込、下地の補強等は建築工事とし、位置は図示（建築図、設備図）に よる。駆動装置が電動の建具等については、2次側配線及び操作ボックスまで本工事とする。 設備機器の位置の取合いなどを検討した施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
※	設計基準レベル	・　ZO＝ ・　BM：
※	工事記録写真	撮影時期／撮影場所／箇所数／サイズ 工事着工前／※　敷地全体／監督職員指示箇所／カラーサービス 工事中／隠ぺい部及び工種毎、高手より完了まで／〃／〃 他監督職員の指示による。
※	完成写真	※　外観及び屋内主要室等、監督職員の指示する箇所（約20カット）を監督職員と協議し決定し た建築写真家により撮影する。写真はキャビネサイズをタイトル入りアルバム製本にし提出す ること。（　3　部） ※　アルミ縁（390×340程度）入り　カラー4つ切り　タイトル入り　（　3　部）
※	支給材料	※　無し　・　有り
※	諸官庁手続	工事施工及び建物の使用開始（含む仮使用）に必要な書類図面の作成、及びその関係官庁への 手続申請は、施工者の負担により遅滞なく行うこと。但し、中間、完成検査に要する 申請手数料は、本工事に含まない。 校舎、屋内運動場、体育倉庫解体前に、河川法第55条の許可申請を北はりま県民局　管理課に必ず提出のこと。 校舎、屋内運動場、体育倉庫解体前に、除去届を北はりま県民局に必ず提出のこと。

第１章　一般共通事項（続）

※	完成図・　施工図	完成図：・　原図提出 ・マイクロフィルム提出（35mmフィルム6コマ組フィッシュ形式） ⊙　アルバム製本　建築 2 部　設備 2 部 ㊛　縮小アルバム製本　建築 3 部　設備 3 部 ⊙　CADデータ一式（建築主の指定するソフト） 施工図：⊙　アルバム製本　建築 1 部　設備 1 部 ㊛　縮小アルバム製本　建築 3 部　設備 3 部 機器製作図：⊙　アルバム製本　建築 1 部　設備 1 部 ㊛　縮小アルバム製本　建築 3 部　設備 3 部
㊛	総合図の作成	工事に先立ち総合図を作成し、監督職員の承諾を受けること。
⊙	完成模型	⊙　作成しない　・　作成する（　　）　1／200
⊙	機器・材料・製品の試験及び検査	⊙　監督職員が立ち合う試験及び検査は下記による他、監督職員の指示による。

試験項目	検査項目	試験所
監督職員の指示による。		

※	工事用電力水道引込	・　敷地外より仮設電力引込 ・　敷地外より仮設水道引込 ⊙　敷地内既設の施設利用：　※　不可　⊙　可　㊛　有償　・　無償）
※	安全対策	※　安全、衛生：安全、衛生に関する管理は、施工者がその責任において関係法規に準拠してお こなう。
※	災害、公害防止	※　工事中の騒音、振動、悶光その他については、関係法規に従い適切な措置を取り、災害、公 害が生じないようにする。
※	見本等	※　下記の他「標仕」及び監督職員の指示により、機器、材料の見本品を提出し、材質、 仕上りの程度、色合いなどの承諾を得る。
⊙	工事実績データの作成・登録	⊙　適用する（コリンズ登録）　・　適用しない
⊙	火災保険等	⊙　適用する　・　適用しない
⊙	電気保安技術者	・　適用する　⊙　適用しない
⊙	技能士	⊙　適用する　・　適用しない 適用工事種別 鉄筋工事（鉄筋施工）コンクリート工事（左官、型枠施工）鉄骨工事（とび）防水工事（防水施工） 石工事（石材施工）タイル工事（タイル張り）木工事（建築大工）屋根及びとい工事（建築板金） 金属工事（内装仕上施工（鋼製下地））左官工事（左官）建具工事（サッシ施工、ガラス施工） 塗装工事（塗装）内装工事（内装仕上施工（床、天井仕上等）表装）
⊙	発生材の処理	「建築工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく発生材の処理を行うこと。 ⊙　特別管理産業廃棄物　⊙　有　・　無 ⊙　場外搬出適切処理 ⊙　再生資源化を図るもの ⊙　アスファルトコンクリート塊　⊙　セメントコンクリート塊 ⊙　建設発生木材　⊙　その他再生資源化を図るもの（鋼材等）
・	揮発性有機化合物の室内濃度の測定	下記室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを 確認し、監督員に報告する。 ⊙　ホルムアルデヒド ⊙　トルエン　⊙　キシレン　⊙　パラジクロロベンゼン　⊙　スチレン　⊙　エチルベンゼン ⊙　測定室　（　居室全て　1階　7室　2階　6室　計　13室　）
		※　簡易測定法による（パッシブ型採取等）　・　厚生労働省の標準的測定法による ※　検体の採取・分析は原則として第三者機関に依頼すること。 ※　指針値を超えた場合は、発生源を特定し換気等を行った上で、施工者が再度測定を行うこと。 ※　兵庫分析センター、和エバテック、ひょうご環境創造協会　同等以上とする。
※	特記事項	㊛　工事関係図書は指定の収納箱に入れて提出のこと。
※	保全に関する資料	※　標仕による。 ※　監督職員の指示による。 ※　下記による。

第２章　仮設工事

※	一般事項	工事に先立ち仮設計画書を作成の上、監督職員の承諾を受けること。
⊙	仮設物の設置場所	㊛　敷地内　・　敷地外
⊙	監督職員詰所	⊙　不要　・　1号　・　2号　・　3号　・　4号　・　5号 冷暖房設備：　・　要　・　不要 ※　光熱費共すべて請負者の負担とする。 ※　詰所内備品は「標仕」による他　・　専用ＦＡＸを備えつける　・　パソコンを備えつける。
・	請負者事務所	・　不要　・　1号　・　2号　・　3号　⊙　4号　・　5号 ※　定例会議が出来るよう備品（テーブル、椅子等）を揃えること。冷暖房設置。メールにて打ち合わせ出来る設備を設けること。
・	仮囲い	位置　㊛　図示　・　監督職員指示 種類：※　万能鋼板　・　波型鋼板　⊙　図示 高さ：※　H＝1800　⊙　図示 塗装：※　片面（　・　単色塗装　・　透過環境へ配慮したペンキ面） ・　なし
・	工事用進入口	⊙　図示 ・　洗車用ピット　⊙　車両洗浄機
・	工事標示板（法定表示）	⊙　工事名称、建築主名、請負業者名、設計者名、監理者名等記入。 取付位置、大きさ、数量は監督職員の指示による。
・	設計監理者標示板	※　作成設置のこと。詳細は監督員の指示による。

第２章　仮設工事（続）

⊙	足場その他	⊙　内部足場　種別（※）脚立、足場板等　・　図示 ・　外部足場　種別　※　単管棚足場　・　図示 種別　※Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 防護シートによる養生　※　行う　・　行わない ・　ハツリ工事を伴う工事を行なう建物は防音パ張りとする 材料、搬去材等の運搬 ・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 足場を設ける場合、改修標仕２．２．１（ｂ）によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」による。

第３章　土工事

㊛	一般事項	※　工事に先立ち施工計画書を作成の上、監督職員の承諾を受けること。
⊙	埋戻し及び盛土	・　A種　⊙　B種　・　C種　・　D種
⊙	建設発生土の処理	㊛　構外搬出適切処理　・　構内指示の場所にたい積 ・　構内指示の場所に敷き均し　・　構外指示の場所に処分
・	山留め	※　関係法令等に従い、施工業者の責任において安全に設置する。
・	地均し	範囲：建物の周囲　※　2m　・　m　・　図示

第４章　地業工事

⊙	一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受けること。
	杭地業	種　類　・　・　鋼管杭　・　場所打ちコンクリート杭 杭　径　・　・　支持力　・　図示 工　法　・（　）工法 ・　建築基準法第38条認定工法（杭周固定液使用　・　有　・　無） ・　日本建築センター評定工法（・　拡底杭　・　耐震杭　・　） 施工試験　・　試験杭（図示）　・　試験砒（図示） 施工精度　※　傾斜は1／100以下、水平方向のずれは100mm以下とする。 その他　・
・	かさ上げコンクリート地業	材　料※　普通コンクリート（設計基準強度18N／mm²，スランプ15cm）
	地盤の設計耐力	※　長期（　）　KN／m²
	地盤改良	・　図示
	載荷試験	方　法※　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「敷地調査共通仕様書」による。 位　置※　図示 種　類　・　杭の載荷試験（・　鉛直　・　水平） 設置後の放置期間　・ 最大荷重（tf）　・ ・　平板載荷試験 ・　最大荷重　・
	砂利地業	厚さ　※　120 mm　⊙　再生クラッシャーラン　・ ・　切込み砂利及び切込み砕石　・
	割り石地業	地業厚さ　※　150 mm　・　mm
⊙	捨コンクリート地業	厚さ　㊛　50 mm　・　mm
⊙	床下防湿層	※　ポリエチレンフィルム　⌀　0．15mm（重ね250mm以上）敷き込み　2重貼 施工箇所　※　「標仕」4．6．6による

第５章　鉄筋工事

⊙	一般事項	工事に先立ち、施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
⊙	鉄筋の種別	異形鉄筋　㊛　SD295A（径16以下）・　SD345（径19以上）　（ＪＩＳ　G3112） ・　SD390（径29以上）・　SD490（径　）（ＪＩＳ　G3112） 丸　鋼　・　SR235　（ＪＩＳ　G3112） 溶接金網　・　6φ×150×150　・　（ＪＩＳ　G3551） ＰＣ鋼材
⊙	鉄筋の継手	⊙　重ね継手　施工箇所：※　ガス圧接箇所以外　・　キカイ式継手（ＰＣ柱） ※　ガス圧接　施工箇所：・　柱筋　・　梁筋、 適用径　：・　Ｄ　19以上・　Ｄ　22以上・　Ｄ　25以上
・	圧接検査	※　外観検査（全数） ※　抜取り検査　※　引張試験（ＪＩＳ　Z3120）による。 ・　超音波探傷試験（日本圧接協会規格　ＮＡＫＳ　０００１　による。）　全数
・	壁開口部の補強	・　図示
・	梁貫通孔の補強	・　図示

第６章　コンクリート工事

⊙	一般事項	※　工事に先立ち、施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
⊙	コンクリートの種類	適用箇所　⊙　図示　／　備　考 ㊛　普通コンクリート ・　軽量コンクリート（・　1種　・　2種）・　比重1．85（t／m³） ・　高強度コンクリート（・　普通　・　軽量） ・　ＰＳコンクリート（・　プレテンション　・　ポストテンション）
⊙	設計基準強度（Ｎ／mm²）	⊙　18　㊛　21　・　24　・　27　・　30
⊙	レディーミクストコンクリートの種別	㊛　Ⅰ類　・　Ⅱ類
㊛	コンクリートの仕上がり	⊙　コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差は「標仕」表6．2．2による。 ⊙　コンクリート表面の仕上り状態は「標仕」表6．2．3による。 ⊙　A種　・B種　・　C種 ⊙　コンクリートの仕上りの平坦差 ⊙　「標仕」表6．2．4による。 ・
⊙	所要スランプ（ｃｍ）	基礎、基礎梁　※　15 柱、梁、床版、壁　※　18　ＰＣ現場打ち部　※　18
⊙	セメント	㊛　普通ポルトランドセメント（ＪＩＳＲ5210） ・　高炉セメント（ＪＩＳ　R5211）（・　A種　※　B種） ・　シリカセメント（ＪＩＳ　R5212）（・　A種　※　B種） ・　フライアッシュセメン（ＪＩＳ　R5213）（・　A種　※　B種）
⊙	単位水量	※　185kg／m³　以下
⊙	単位セメント量	※　270kg／m³　以上
⊙	水セメント比の最大値（%）	・　65　※　60　・　55
⊙	混和材料	※　混和剤　・　ＡＥ剤又はＡＥ減水剤標準形（ＪＩＳ　A6204） ※　高性能ＡＥ減水剤標準形（ＪＩＳ　A6204） （適用箇所：設計基準強度21Ｎ／mm²　以上のコンクリート） ・　混和材　・　フライアッシュ　（ＪＩＳ　A6201）
⊙	試し練り試験	・　不要　㊛　要（ＪＩＳ規格外品）
⊙	細骨材の塩分	※　塩分含有量≦0．04%
⊙	コンクリート中の塩化物量	※　0．3kg／m³　以下（Ｃｌ　重量） 試験は、150m³　以内ごと、又はその端数につき1回とし、1回の試験の 測定数は3とする。測定には、（財）国土開発技術研究センターの技術評価を 受けた塩化物量測定器を用いる。
⊙	アルカリ骨材反応対策	※　アルカリ骨材反応試験により、安全と認められた骨材を使用すること。 試験成績表を提出すること。

⊙	その他のコンクリート	種　別	設計基準強度	スランプ	適用箇所
		⊙　捨コンクリート	18　N／mm²	15　cm	
		⊙　土間コンクリート	21　N／mm²	15　cm	
		・　無筋コンクリート	18　N／mm²	15　cm	
		・　軽量コンクリート（比重1．85t／m³）	18　N／mm²	18　cm	

※　上記コンクリートについては、ＪＩＳ許可工場の計画調合書を提出することにより、塩化物量試験・　アルカリ骨材反応試験は不要とする。

⊙	型枠の材料	※　日本農林規格「コンクリート型わく用合板」（厚さ　※　12mm　・　mm） ⊙　打放し仕上部分－表面加工品 ⊙　一般部分　－　B－C ・　金属型枠パネル（ＪＩＳ　A8652） ・　その他の型枠（　ラス型枠（地中梁、その他地中部分に使用）　）
	寒中コンクリートの適用期間	・

第７章　鉄骨工事

一般事項	※　工事に先立ち、施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
鉄骨の製作工場	製作工場の認定種別（（社）鉄骨建設業協会及び（社）全国鉄構工業協会の呼称による。）
	・　S類　　・　A類又はHグレード　年頭加工能力９６００ｔ以上
	・　B類又はH　　・　Mグレード　　○　C類又はRグレード
	以上の係員の承諾する工場
施工管理技術者	※　適用する　・　適用しない
工事管理者の承諾を必要とするもの	※　製作工場　※　製作要領書　※　施工計画書　※　社内検査表
鋼材	※　ＪＩＳ規格品　（　・　ＳＮ４００Ａ　・　ＳＮ４００Ｂ　・　ＳＮ４００Ｃ
	・　ＳＮ４９０Ｂ　・　ＳＮ４９０Ｃ）
	※　（　・　ＳＴＫ４００　・　ＳＴＫ４９０　・　ＳＴＫＲ４００　・　ＳＴＫＲ４９０　○　ＳＳＣ４００）
	（　・　ＳＴＫＮ４００Ｗ　・　ＳＴＫＮ４００Ｂ　・　ＳＴＫＮ４９０）
冷間成形角形鋼管	・　（財）日本建築センターの審査を受けたもの（（社）鋼材倶楽部規格ＢＣＰ又は
	ＢＣＲ材）。又は、「冷間成形角形鋼管評価基準」（（財）日本建築センター）
	に準拠して、品質保証のされたものを使用すること。
高力ボルト	◎　トルシア形高力ボルト（Ｓ１０Ｔ－ＪＳＳ　０９）
	・　ＪＩＳの高力ボルト　－　２種（Ｆ１０Ｔ）
	・　溶融亜鉛メッキ高力ボルト１種（Ｆ８Ｔ）
	・
普通ボルト	※　ＪＩＳ　Ｂ１１８０及び１１８１
アンカーボルト	※　ＳＮＲ４００　　・　ＳＤ３４５　ＪＩＳ　Ｇ３１１２　３種
スタッドジベル	※　ＪＩＳ　Ｂ１１９８（頭付スタッド）
デッキプレート	・　ＪＩＳ　Ｇ３３５２（・　ＳＤＰ１Ｔ　・　ＳＤＰ２　・　ＳＤＰ３　・　ＳＤＰ２Ｇ）
	・　耐火合成スラブ用デッキプレート
	（建設大臣の指定を受けたもの　・　１時間耐火　・　２時間耐火）
	（・　溝快タイプ　・　溝広タイプ　・　メッキ仕様）
工作図	床書き原寸図　※　作成する　・　作成しない
	ボルトのゲージ、ピッチ、割り、あき等
	※　国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による
	・　図示
製作精度	※　（社）日本建築学会ＪＡＳＳ６付則６「鉄骨精度検査基準」による
溶接施工	開先形状　※　国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による
	・　図示
	完全溶込み溶接部の余盛高さ　※　４ｍｍ以下
	デッキプレートの溶接　※　焼抜き栓溶接　・　スタッド溶接
溶接開先加工工法	・　柱　・　大梁仕口部の工場溶接は原則としてノンスカラップ工法を採用すること。
	採用が困難な場合は監督職員の承諾を受けて、改良型スカラップ工法とする。
溶接工の技量試験	※　ＡＷ　認定協議会による技量認定溶接工（固形タブ使用は技量試験）は試験不要
	※　技量試験を行う。
溶接部の検査	検査方法　◎　目視（全数）
	○　超音波探傷試験（日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査
	基準」による）
	・　浸透探傷試験　（ＪＩＳ　Ｚ２３４３）
	・　放射線透過試験（ＪＩＳ　Ｚ３１０４）
	・
	検査抜取率・　突合せ溶接線の（　※３０　○　１００　）%以上（ただし、現場溶接部は１００%）
	検査機関　※　抜取検査は、当該工事の鉄骨製作工場に所属しない日本溶接協会
	・溶接検査認定委員会（ＣＩＷ）の認定する検査会社Ｂクラス以上とする。
	その他　※　鉄骨加工業者の社内自主検査率は１００%とする。
建方の精度	※　ＪＡＳＳ６　付則６－付表５による。
鉄骨精度検査基準	※　ＪＡＳＳ６　付則６による。
鉄面の素地ごしらえ	○　「標仕」表１８．２．２　・　Ａ種　・　Ｂ種　※　Ｃ種
	◎　ＵＥ・　ＦＵＥ塗りの場合は「標仕」表１８．２．２　Ｂ種

錆止め塗料	適用箇所	種別	規格、種類等
	屋　内	※　Ｂ種	※　ＪＩＳ　Ｋ５６２１（一般用錆止めペイント）１種
			・　ＪＩＳ　Ｋ５６２２（鉛丹錆止めペイント）１種、２種
		○　Ａ種	・　ＪＩＳ　Ｋ５６２５（シアナミド鉛錆止めペイント）
			１種、２種
			・
	屋　外	※　Ａ種	・　ＪＩＳ　Ｋ５６２２（鉛丹錆止めペイント）１種、２種
			※　ＪＩＳ　Ｋ５６２５（シアナミド鉛錆止めペイント）
			１種、２種
			・
	ＳＲＣ造の鉄骨に溶接された鋼製スリーブ内面	※　Ｂ種	※　ＪＩＳ　Ｋ５６２１（一般用錆止めペイント）１種
	耐火被覆材の接着面		・　塗装なし　・　あり
	塗装回数		
	※　工場１回　現場１回　○　工場２回		
	種類に１種、２種の別がある場合には１回目を１種とする。		

第７章　鉄骨工事（続）

アンカーボルトの保持及び埋込み工法	○　「標仕」表７．１０．１による　・　Ａ種　※　Ｂ種　・　Ｃ種
耐火被覆	○　図示
亜鉛メッキ	「標仕」表１４．２．２　Ａ種
請負者の検査	※　現寸検査　※　開先検査　※　製品検査　※　塗装検査　※　建方検査
	検査の記録を監督職員に提出し、承諾を受けること。監督職員の立会は協議の上
	決定する。

第８章　コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
建築用コンクリート	外壁（化粧積み）　※　ＪＩＳ　Ａ５４０６　空胴ブロック　１６－Ｗ　厚さ：１５０
ブロック	耐力壁、網仕切壁、塀等　※　ＪＩＳ　Ａ５４０６　空胴ブロック　１６　厚さ：１００
	目地用鉄筋　※　異形鉄筋　（ＪＩＳ　Ｇ３１１２）
	配筋　○　図示
ＡＬＣパネル	◎　ＪＩＳ　Ａ５４１６規格品
	・　注文品　寸法：
	外壁パネル工法　・　Ａ種　・Ｂ種　・　Ｃ種　○　横壁ＨＤＲ構法（横壁アンカー構法）
	網仕切り壁パネル工法　・　Ｂ種　・　Ｃ種　・　Ｄ種　・　Ｅ種　・Ｆ種　・Ｇ種
	開口補強　○　図示
押出成形セメント板	・　パネルの種類
	・　形状寸法
	・　外壁パネル工法　・　Ａ種　・　Ｂ種
	・　網仕切壁パネル工法　・　Ｂ種　・Ｃ種
その他	

第９章　防水工事

※　一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
	防水の施工については随時監督職員の検査を受けること。

アスファルト防水	施工区分	施工箇所	種別（標仕）	種別（メーカー仕様）	保証年限	備考
	防水層（密着）		・　Ａ－１			
			・　Ａ－２			
	防水層（密着断熱）		・　Ａ Ⅰ－１			
			・　Ａ Ⅰ－２			
	防水層（絶縁）		・　Ｂ－１			
			・　Ｂ－２			
	防水層（絶縁断熱）		・　Ｂ Ⅰ－１			
			・　Ｂ Ⅰ－２			
	露出防水（絶縁）		・　Ｄ－１			断熱材ｔ２５＋保護コン
			・　Ｄ－２			
	屋内防水（密着）	便所	・　Ｅ－１		１０年	保護モルタル
			○　Ｅ－２			

アスファルト	ＪＩＳ　Ｋ２２０７　※　３種　・　４種（寒冷地用）
脱気装置	平面部　／　立上り部
	※　ステンレス製　／　防水材製造業者の仕様
断熱材	※　ＪＩＳ　Ａ９５１１　３種ｂスキン層付き　・　厚　２５

シート防水	施工箇所	種別	厚さ	仕上	保証年限	備考
	屋上（平場）	加硫ゴムシート防水（機械的固定工法ＳＭ）	t=1.5	遮熱塗料塗（シルバー）	10年	
	屋上（立上り）	加硫ゴムシート防水（接着工法ＳＦ）	t=1.2	遮熱塗料塗（シルバー）	10年	

合成高分子ルーフィング	施工箇所	種別	厚さ	仕上	保証年限	備考
	製造所　田島ルーフィング（株）、三ツ星ベルト（株）、シバタ工業（株）　同等以上					

塗膜防水	施工箇所	種別	厚さ	仕上	保証年限	備考
	Ｐ Ｈ階屋上（平場、立上り）	ウレタン塗膜防水（Ｘ－２）	t=3.0		10年	
	階段床（スラブ）	ウレタン塗膜防水（Ｘ－２）	t=3.0		10年	

その他の防水	施工箇所	種別	厚さ	仕上	保証年限	備考

保証書	請負業者、防水施工業者、防水材料業者の連名にて保証書を（　２　）部提出すること。
漏水試験	○　試験カ所（　防水ヶ所全て　）
伸縮目地	・　注入目地　※　成形伸縮目地
防水層押え	・　レンガ（ＪＩＳ　Ｒ１２５０）　・　乾式防水押え（押出成型セメント板）

第９章　防水工事（続）

○　シーリング	ＪＩＳ　Ａ５７５８

記号	主成分による区分	施工箇所	目地寸法	保証年限	備考
ＭＳ－２	変成シリコーン系	サッシ廻り	１０×１０程度	５年	
ＰＵ－２	ポリウレタン系	サッシ廻り	１５×１０程度	５年	

	※　被着体の組合せと、シーリング材の種類は「標仕」表９．６．１による
補助材料	○　プライマー　※　主材製造所の製品とし、被着体（塗装してある場合は塗料）に適したもの。
	○　バックアップ材　※　合成樹脂又は合成ゴム製でシーリング材に変色等の悪影響を及ぼさず、かつ、シーリング材と接着しないものとし、使用箇所に適した形状。
	○　ボンドブレーカー　※　紙、布、プラスチックフィルムなどの粘着テープでシーリング材と接着しないもの。
接着性試験	※　行う　・　行わない

第１０章　石工事

※　一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成の上監督職員の承諾を受けること。

花こう岩、大理石、その他天然石張り	施工箇所	材種	産地　名称、品質	仕上の種類	厚さ	工法	備考
	エントランス上框	黒御影石		本磨き仕上			５０×７５

取付金物	※　ＳＵＳ３０４　・　形状寸法図示
シーリング材	※　「標仕」９．６シーリングの項による
裏面処理	材料　※　けい砂入りエポキシ樹脂塗り　・　石材業者の指定する製品
	範囲　・　図示　・基本的に全て
伸縮目地	位置　・　図示　寸法　・　図示　材料　・　防水工事シーリングの項による。
	○　入り隅又は※６０００程度　・　寸法－１０×１０程度

テラゾーブロック張り	施工箇所	種石の種類及び大きさ	厚さ	備考

テラゾータイル張り	施工箇所	種石の種類及び大きさ	厚さ	備考

第１１章　タイル工事

※　一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成の上監督職員の承諾を受けること。

陶磁器質タイル張り	施工箇所	寸法形状	きじの質	釉	役物	工法	備考
			磁	炻	陶			
	コンコース	１００×１００	○				一般床タイル張り工法	※既設タイル合わせ
	エントランス	１００×１００	○				一般床タイル張り工法	※既設タイル合わせ
	外部階段	６０×１５０	○				一般床タイル張り工法	※階段タイル

	役物タイル　※　一体成形　・　接着成形
	接着剤張りの（内装）場合の接着剤は表中備考欄参照
目地材料	目地用モルタル細骨材　○　川砂　・　寒水石粉　・　けい砂
	防水材の使用量　○　製造所の仕様　・
伸縮目地	位置　・　図示　寸法　・　図示　材料　○　防水工事シーリング工事の項による。
	○　入り隅又は※３０００程度　○　寸法－５×５程度

第１１章　タイル工事（続）

見本焼き	（　　）種類
検査	叩きによる検査　※　全面
接着力試験	※　「標仕」による。
タイルの予備保管	施工数量の３%（種類毎）

第１２章　木工事

◎　一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成の上監督職員の承諾を受けること。
構造用集成材及び	図示による。
躯体木工事	

○　木材	使用部位	樹種	品等	備考
	上框	桧	小節	サイズは図示
	三方枠	ｽﾌﾟﾙｰｽ	小節	サイズは図示

	○　その他図示又は共仕による
○　代用樹種の使用	○　可　・　不可　　国産松集成材
○　表面仕上の程度	・　Ａ種　※　Ｂ種　・　Ｃ種　・　手掛カンナ仕上
	（サンダー４００＃仕上）
○　木材断面の指示寸法	構造材　※　ひき立て寸法
	造作材　※　仕上がり寸法

化粧はり造作用集成材	施工箇所	樹種	厚さ	等級	備考
	柱、付柱、見切材、割り縁	桧	t=1.6		
	敷居、鴨居、付鴨居、長押	桧	t=1.6		

造作用集成材	施工箇所	樹種	厚さ	等級	備考

防腐処理	○　行う　・　行わない　　（塗装工事による）
防蟻処理	○　行う　・　行わない
防虫処理	○　行う　・　行わない　　（塗装工事による）

第１３章　屋根及びとい工事

※　一般事項	○　工事に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受けること。

金属板葺及び折板葺	施工箇所	屋根葺き形式	材種	厚さ	保証年限	備考

	製造所　（株）アスノ　三昇金属工業（株）元旦ビューティー工業（株）同等以上
スレート波板葺（外壁を含む）	種類　・小波　・中波　・大波　・リブ波
	役物　・あり　・なし
	とめ付け金物　・亜鉛メッキボルト　・ステンレスボルト
	地域　・強風地域　・多雪地域　・塩害地域
	軒先面戸　・あり　・なし

その他屋根葺材	材種	施工箇所	工法・種類	形状寸法	保証年限	備考

とい	材種	形状・寸法	施工箇所	備考
	・　配管用鋼管			
	○　硬質塩化ビニール管	Ｈ-１５Ｊ	軒樋	既製品
	○　カラービニルパイプ	１００φ	竪樋	既製品
	・　亜鉛めっき鋼板			
	・　硬質塩化ビニール			

ルーフドレイン	防露　※　共仕により行う　・　行わない
	掃除口　※　あり　・　なし
	材質　※　鋳鉄製コールタール焼付　・　ステンレス製　　○　タールエポキシ樹脂塗
	工法　◎　打込み工法　○　後付工法（改修用ゴムドレーン）
ステンレスシート防水	
※　保証書	請負業者、屋根施工業者、材料業者連名にて保証書を（　２　）部提出すること。

加東市役所
〒６７３-１４９３　兵庫県加東市社３３番地　TEL：０７９５-４２-３３３１（代表）

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化	工事設計図	作図年月日	縮尺		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号
特記仕様書2		'22.8	A３縮小							22023

図面番号
A－　003

第１４章　金属工事

◎ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成の上監督職員の承諾を受けること。

	施工箇所	材質	板厚	表面仕上	備考
⊙ ステンレスの表面仕上げ	既設給湯器跡穴埋めカバー	⊙SUS304	⊙1.5 mm	◎HL・No. 2B・No. 8（鏡面）	
		・	・図示	・BA・塗装・	
	配管バック面台	⊙SUS304	⊙1.5 mm	◎HL・No. 2B・No. 8（鏡面）	
		・	・図示	・BA・塗装・	
		・SUS304	・mm	※HL・No. 2B・No. 8（鏡面）	
		・	・図示	・BA・塗装・	
		・SUS304	・mm	※HL・No. 2B・No. 8（鏡面）	
		・	・図示	・BA・塗装・	

	施工箇所	表面処理種別	塗装仕上の種類	備考
・ アルミニウム合金の表面処理	床見切・壁見切	A－1　B－1　C－1　D A－2　B－2　C－2	アクリル樹脂表付	
	表面処理の試験	・行う	・行わない	

	施工箇所	亜鉛めっきの種別	記号または等級	備考
・ 鉄鋼の亜鉛めっき		JISH8641　2種（溶融亜鉛めっき）	・A種（HDZ　55・板厚4．5以上） ・B種（HDZ　45・板厚3．2以上） ・C種（HDZ　35・板厚1．6以上）	板厚により決定
		JISH8610　2種（電気亜鉛めっき）	・D種（　5級　） ・E種（　4級　） ・F種（　3級　）	屋外 屋外 屋内
	表面処理の試験	・行う	・行わない	

	施工箇所	野縁などの種類	備考
・ 軽量鉄骨天井下地	屋外	・19型　※　25型	補強　※　必要　・　不必要　・　耐風圧タイプ（　　Pa）
	屋内	◎19型　・　25型	
	※　天井下地施工時、既設天井インサートは使用せずあと施工アンカー施工のこと。		

	施工箇所	スタッド高さによる適要	備考
⊙ 軽量鉄骨壁下地	・19型	高さ2．7m以下	内壁下地
	・50型	高さ2．7m以下	間仕切壁
	⊙65型	高さ4．0m以下	間仕切壁
	・90型	高さ4．0mを越え4．5m以下	
	・100型	高さ4．5mを越え5．0m以下	間仕切壁
	※　共仕14．5．3表による		

	施工箇所		材料の種別	備考
・ 手すり及びタラップ	⊙手すり	外部	・スチール製 ・アルミニウム製 ・ステンレス製	
		内部	・アルミニウム製 ⊙ステンレス製 ⊙塩ビ樹脂製	階段 便所
	・タラップ	外壁 受水槽	・スチール製 ・アルミニウム製 ・ステンレス製	
		アリーナ	・スチール製 ・アルミニウム製 ・ステンレス製	
	・　材料の種別がスチールの場合は亜鉛メッキC種とする			

	施工箇所	材料の種別	厚さ	表面処理	備考
・ 金属成形板張		・スチール製 ・アルミニウム製 ・ステンレス製			
		・スチール製 ・アルミニウム製 ・ステンレス製			

	名称	区分	材質	形状，寸法	表面処理	防錆処理	備考
⊙ 既製金物及び製作金物	⊙既設給湯器跡穴埋めカバー	既・製	SUS	図示	HL		
	⊙配管バック面台	既・製	SUS	図示	HL		
	・アルミ巾木	既・製	アルミ	図示	焼付塗装		
	・鋼製三方枠	既・製	スチール	図示	SOP塗装		
	・アルミ枠	既・製	アルミ	図示	焼付塗装		給排メタル アート同等以上
	・目地棒	既・製	SUS	図示	HL		
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					
		既・製					

・ 伸縮継手	笠木手摺には必要に応じて伸縮継手を設ける。

第１５章　左官工事

◎ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。
⊙ ひび割れ防止	下地が異なる取合部分には原則として（　・　目地　⊙　見切り縁）を設ける。
⊙ 防水モルタル塗り	⊙防水剤の製造所
⊙ 下地処理	⊙吸水調整剤の製造所
・ 人造石塗り	
・ セルフレベリング材塗り	・材種　・せっこう系　⊙セメント系 ⊙塗り厚　◎10mm
・ 床コンクリート表面強化剤	・
・ 伸縮目地	⊙位置　　@3000程度毎 ⊙寸法　　15×15程度

	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・ 薄付け仕上塗材	⊙外装薄塗材E	⊙砂壁状	⊙吹付け	梁型　軒裏
		・着色骨材砂壁状	・吹付け	
	・内装薄塗材E	・砂壁状ジュラク	・吹付け	
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状	・吹付け	
		・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー	
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー	
		・凹凸状	・吹付け	
	・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	
	・内装薄塗材W	・京壁状ジュラク	・吹付け	

	呼び名		仕上げの形状	工法	備考
・ 厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	
			・ひき起し ・凸部処理	・こて塗り	
	・内装厚塗材C	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	
			・ひき起し ・凸部処理	・こて塗り	
	・外装厚塗材E	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	

	種類	仕上げの形状	工法	備考
・ 複層仕上塗材	・複層塗材E	・ゆず肌状	・ローラー	アクリル系吹付タイル　内部
		・凸部処理 ・凹凸模様	・吹付け	
	⊙可とう形複層塗材CE	⊙ゆず肌状	⊙ローラー	
		・凸部処理 ・凹凸模様	・吹付け	
	・複層塗材Si	・ゆず肌状	・ローラー	
	・単層弾性塗材	・凸部処理	・吹付け	
	・複層塗材RE	・凹凸模様		
	・複層塗材RS	・ゆず肌状	・ローラー	
		・凸部処理 ・凹凸模様	・吹付け	
	・防水形複層塗材CE	・ゆず肌状	・ローラー	アクリル系吹付タイル　外壁
	・防水形複層塗材E	・凸部処理	・吹付け	
	・防水形複層塗材RS	・凹凸模様		

	種類	仕上げの形状	工法	備考
・ 軽量骨材仕上塗材				
	・吹付用軽量塗材	・砂壁状	・吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	・平たん状	・こて塗り	

・ ロックウール吹付	⊙施工箇所　E.Vシャフト内　鉄骨部分 ⊙吹付厚さ　t=25
・ 珪藻土掻き落し	・外壁に使用。（株）ヤブ原産業「ケーソーウティカ」同等品 四国化成工業（株）　フジワラ化学工業（株） 色調、テクスチャー等確認の上3×3m程度のモックアップを製作の上決定する。
・ 珪藻土塗り	・内壁に使用。（株）ヤブ原産業「ケーソーライト」同等品 四国化成工業（株）　フジワラ化学工業（株）
・ 亜砂利洗い出し、玉石洗い出し	・アプローチ、浴槽等で使用。砂利は五色石程度、玉石は100～200φ程度で見本石提出のこと

第１６章　建具工事

◎ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。 耐風圧強度は告示1454号（平成12年）に基づく計算書を作成し、監督職員の承諾を受けること。
・ アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能　JISA4702　，　JISA4706　（　）内は旧表示を示す。

性能項目 / 種別	耐風圧	気密性	水密性	枠の見込み
◎A種	S－4（2000Pa）	A－3（8等級線）	W－4（35等級線）	※70（注）・80 ・100
・B種	S－5（2400Pa）			
・C種	・S－6（2800Pa） ・S－7（3600Pa）	A－4（2等級線）	・W－4（35等級線） ・W－5（50等級線）	※100・

⊙（注）一形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は、枠の見込み100とする。

⊙表面処理	外部　※　B－1種（無着色）　・　D種（アクリル） 内部　※　C－1種（無着色）　・　D種（アクリル）
⊙建具周囲のシーリング材は「標仕」9．6．1表による	
・描き出し建具の下枠はフラットとする。	

第１６章　建具工事（続）

	・防音サッシ遮音性能　・普通サッシ、ドア　※　T－1（25等級線） ・防音サッシ、ドア　※　T－2（30等級線）　⊙　T－3（35等級線） ・　T－4（40等級線） 施工箇所　　建具表参照
	・断熱ドアー断熱性能　・H－1（0．22m²・k／w）　※　H－2（0．25m²・k／w） ・H－3（0．28m²・k／w）　・H－4（0．34m²・k／w） ・H－5（0．43m²・k／w）
	・耐震ドアーの面内変形追随性　・D－1（1／300rad）　※　D－2（1／150rad） ・D－3（1／120rad）
	⊙延焼線内は、防火設備とする
・ 網戸	形式　　※　G2　・可動式　・固定式 網の材種　※　合成樹脂　・ステンレス　・ガラス繊維入り合成樹脂 メッシュ　※　16　・　18
・ 鋼製建具	鋼製建具の性能は※「標仕」16．2．2（a）による。 鋼板の厚さ　※「標仕」表16．3．3による　・
・ 鋼製軽量建具	鋼製軽量建具の性能は※「標仕」表16．4．1による。 召合せ．縦小口包み板　・ステンレス　※　鋼板　・アルミ ・塗装　⊙　焼付塗装（フッ素樹脂塗装）
・ ステンレス製建具	ステンレス建具の性能及び構造は※「標仕」16．3．2による。

施工箇所	曲げ加工		備考
受付カウンター	※　普通曲げ・角出し曲げ	※　HL・BA・No. 8（鏡面）	
	※　普通曲げ・角出し曲げ	※　HL・BA・No. 8（鏡面）	

⊙ 木製建具	「標仕」による他図示による
⊙ 建具金物	見本品　※　提出 鍵類　⊙グランドマスターキー　⊙マスターキー　⊙製作する（　　種類）・製作しない 鍵箱　◎必要 排煙用オペレーター　◎ワンタッチ式　⊙埋込　⊙露出 電動装置　※　図示　・ヒューズ装置　※　図示

	施工箇所	駆動力	開閉方法	検出装置	備考
・ 自動扉	風除室	※　電動式 ・電動油圧式 ※　電動式 ・電動油圧式	引き分け	光線スイッチ	ナブコロスカドア28型 /姫路ナブコ同等以上

	施工箇所	機械による種類	開閉機能	シャッターケース	備考
・ 重量シャッター		・防火シャッター	※　上部電動式（手動併用）	※　設ける	
		・防煙シャッター	※　上部電動式（手動併用）	※　設ける	
		・防火．防煙シャッター以外	※　上部電動式（手動併用）	※　設ける ・設けない	

・ 座板スイッチ	・要　・不要
・ 軽量シャッター	開閉機構　※　手動式　・上部電動式（手動併用） フック棒　※　要　・不要 施工箇所：　給食受口

	施工箇所	材質	開閉機構による種類	備考
・ グリルシャッター		・スチール製　・ステンレス製 ・アルミ製	・上部電動式　・手動式	
		・スチール製　・ステンレス製 ・アルミ製	・上部電動式　・手動式	

・ オーバーヘッドドア	開閉機構　※　バランス式　・チェーン式　・電動式 セクション材　・スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ
⊙ ガラス	種別．寸法　※　図示 厚さ　※　図示によるが耐風圧強度は告示1454号（平成12年）に基づく計算書を作成し、 監督職員の承諾を受けること。 ・熱線反射ガラスの映像調整　・行う　・行わない ・発熱ガラス　・　　に使用 納まりについて、サッシュメーカー及び電気工事施工業者と十分に協議して施工のこと。

	建具の種類	材種（表9．6．1）
⊙ ガラス留め材	⊙アルミニウム製	◎SR－1シリコーン系　・パテ2種　⊙ガスケット
	⊙鋼製ステンレス製	※　SR－1シリコーン系　・パテ1種
	※　乙種防火戸については建築基準法に基づく防火性能の認定品使用のこと	

・ ガラス用フィルム	・飛散防止用フィルム　住友スリーエム（株）「スコッチティントSH2CL」同等 シーアイ化成（株）
・ 建具見本の製作	・要　・不要

第１７章　カーテンウォール工事

※ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受けること。 耐風圧強度は告示1454号（平成12年）に基づく計算書並びにその他性能表を作成し、 監督職員の承諾を受けること。
・ カーテンウォールの性能	・耐風圧性能 ・耐震性 ・水密性 ・気密性 ・耐火性 ・耐温度差性 ・遮音性 ・断熱性 ・性能実験　・要 ・試作品の作成　・要
・ メタルカーテンウォール	・材種 ・シーリング材　※「標仕」9．6．4［施工］による。 ・構造用ガスケット　種類 形状 寸法 ・断熱材 ・形状及び仕上げ　※「標仕」17．2．3による。 ・ガラス溝の寸法　・図示 ・試作品の作成　・要
・ PCカーテンウォール	※「標仕」17．3．1による。 ・表面仕上 ・構造用ガスケット　種類 形状 寸法 ・試作品の作成　・要

第１８章　塗装工事

◎ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。 使用材料は全て室内環境対応形（F☆☆☆☆）とし、材料承認願いを作成し監督職員の承諾を受けること。
⊙ 色彩見本張	下記見本張（最新版）を施工者にて現場に常備すること ⊙標準色カード230及び202（日本色研事業KK） ⊙日本の伝統色　⊙DICの色見本Part1，2（大日本インキ化学工業KK） ⊙塗料用標準色見本張ワイド版及び普及版（日本塗料工業会） ・
⊙ 一般塗料	⊙材料はJIS規格品とする

	素地	種別「標仕」18．2
⊙ 素地ごしらえ	⊙木部	・A種　⊙B種
	・鉄鋼面	・A種　・B種　※　C種　※　UE，FUEの場合はB種
	・亜鉛めっき面	・A種　※　B種　・C種
	・モルタル．プラスター	・A種　※　B種
	・コンクリート．ALCパネル	・A種　※　B種
	・コンクリート及び押出成形セメント板	・A種　※　B種
	・石こうボード．その他ボード	・A種　⊙B種　⊙全面寒冷紗張り

・ 錆止め　塗料塗り	鉄鋼面錆止め塗料　見え掛け部　※　A種　・B種 見え隠れ部　・A種　※　B種 亜鉛メッキ面錆止め塗料　鋼製建具　※　A種　・B種 その他　・A種　※　B種
⊙ 一般塗料工法	※「標仕」による
⊙ 記号の名称	SOP－環境対応形木部塗料、EP－環境対応形水系塗料、CL－環境対応形クリア系木部塗料、PU－水系ポリウレタン樹脂塗料、
⊙ 塗装業者	※　日本塗装工業会の会員
⊙ 予備保管	
⊙ 木部浸透性防腐剤	
⊙ 木部浸透性保護剤	
・ はっ水剤	

第１９章　内装工事

◎ 一般事項	工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。

	材種	施工箇所	厚さ	備考
⊙ ビニル床シート	クッションフロア CFシート/東り同等品程度	トイレ・洗面室・ホール 和室①，②，③・DK	t=1.8	継目　※　溶接　・突付
・ ビニル床タイル				継目　※　溶接　・突付
・ ゴムタイル				継目　※　溶接　・突付
・ ビニル巾木	材質　※　軟質　厚さ　※　2．0 高さ　⊙60　・75　・100			
・ 竹マット				
・ 木製スノコ				

加東市役所
〒673-1493　兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301（代表）

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図

特記仕様書3

作図年月日	縮尺	承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
'22.8	A3縮小　－　－						22023	A－004

第１９章　内装工事（続）

- カーペット敷き

名称	種別	下地材	帯電防止	備考
（防炎認定品）	タイルカーペット	厚6．5	コンクリート	有り
	品質検査　・　要　・　不要			

- 自然素材床材

- 合成樹脂塗り床

種別	塗り厚	仕上	備考
ウレタン樹脂系	2．0	ノンスリップ	

- フローリング張り

類別	工法	樹種 種別	寸法	備考
⊙ 無垢フローリング	⊙ 釘留工法 ・ 接着工法	・ カバ桜	厚15　ウレタン樹脂ワニス3回塗	
・ 複合フローリング	・ 釘留工法	※ なら	厚12×働き巾303×長さ1，818	
・ フローリングブロック	・ モルタル埋込工法 ・	※ なら ・	※　15×303×303 ・	
・ モザイクパーケット	・ 接着工法 ・	・	・	
・ 天然木化粧複合フローリング	・ 接着工法 ・	・	※　8×75×900以上 ・	

- 縁甲板　㊟ 松上小　　・ 寸法15×105 ・　備考

- 畳敷き　ＪＩＳ　Ａ5902　種別　・　A種　㊟ B種　・　C種　・　D種

- ⊙ 石膏ボード

種類又は記号	寸法	区分	備考
ＪＩＳＡ６９０１			
・ GB－R（一般ボード）	・ 9．5　・ 12．5　・ 15	・ 不燃　・ 準不燃	
⊙ GB－S（シージングボード）	⊙ 12．5　・ 15	⊙ 準不燃	
・ GB－F（強化ボード）	・9．5　・12．5　・15　・21	・ 不燃	
・ GB－L（ラスボード）	・ 7　・ 9．5	・ 不燃	
・ GB－D（化粧ボード）	・ 9．5　・ 12．5　・ 15	・ 不燃　・ 準不燃	
・ GB－P（吸音穴アキボード）	・ 9．5　・ 12．5（注生）	・ 準不燃	
・ TSH（高硬度超硬質）	・ 9．5　・ 12．5　・ 15	・ 不燃	

種類	規格寸法	区分	使用箇所	備考
・ その他ボード				
岩綿吸音板	・ 9　・ 12	⊙ 不燃　・ 準不燃		底目張り 有孔ボード
硅カル板	・ 6　・ 8	⊙ 不燃　・ 準不燃		
化粧硅カル板	・ 6	・ 不燃　・ 準不燃		
セメントモルタル板	・ 12.5	・ 不燃　・ 準不燃		
⊙ 合板	ラワン合板	⊙ 5.5　⊙ 12.0	⊙ 1　類　・2　類		
・ 化粧合板	タモ天然木化粧合板	・ 12	・ 難燃	屋内運動場	有孔、寒冷紗共
・ タンポア		・ 5	・ 難燃処理材		

- ⊙ 壁紙張り

類別	防火性能	備考	類別	防火性能
無機質壁紙	第0005号 ㎡	AAランク　壁・天井共		号級
	号級			号級
	号級			号級

素地ごしらえの種別
- モルタル及びプラスター面　・ A種　※ B種
- 石膏ボード面　・ A種　※ B種
- 繊維混入けい酸カルシウム面　・ A種　※ B種

- 断熱　防露

種類	厚さ	備考
グラスウール	t=50	24K　（壁・天井裏）
防湿シート	t=0.15	

- ＯＡフロアー　マジックフロア／三洋工業同等以上　　施工箇所：仕上表参照
- 耐火シール　1時間耐火壁については、四周シール処理すること。
- 予備保管　タイルカーペット－施工数量の3％（種類毎）

第２０章　ユニット及びその他の工事

※ 一般事項　工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。

- トイレブース　・ メラミン樹脂化粧合板　標準タイプ／文化シャッター　同等品以上
- シャワーブース　・ FRP　下地合成樹脂発泡体　標準タイプ／文化シャッター　同等品以上
- 便所面台　メラミンポストフォームカウンター　TPAタイプ（アイカ工業）厚19　同等以上
- ⊙ 抗菌メラミン不燃化粧板　厚3　セラール（アイカ工業）同等以上　　専用ジョイナー共　　註）通常のキッチンパネルは不可
- ベビーシート　・ YKA24R　TOTO同等以上
- 洗面カウンター　・ 図示　　マーブルライトカウンターML450／TOTO同等以上
- ⊙ ユニットバス　⊙ 参考品番図示　LIXIL／TOTO／ﾀｶﾗｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ同等以上
- ⊙ 洗面化粧台　⊙ 参考品番図示　LIXIL／ﾀｶﾗｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ同等以上
- ⊙ キッチン台（流し台+コンロ台）　⊙ 参考品番図示　LIXIL／ﾀｶﾗｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ同等以上

第２０章　ユニット及びその他の工事（続）

- 階段滑り止め　材種　⊙ ステンレス製（SUS304）ビニルタイヤ入り又は挿り込み
  - ・ ステンレス製（SUS304）タイヤなし
  - ・ アルミニウム製　（既製品　ビニルタイヤ+アルミ製）
  - ・ 真ちゅう製
  - 寸法　※　35mm　・　40mm
  - 工法　※　埋込み工法　⊙ 接着工法
- 床目地棒　※　「標仕」20．2．7による
- 黒　板　及び　ホワイトボード　種別　・ 壁付黒板　アルミニウム製枠、チョーク溝、チョーク入れ付
  - ⊙ ホワイトボード、アルミニウム製枠、マジック溝付
- 掲示板　・合板 t＝9mm　ゴムタイル t＝9mm
- 化粧大型鏡　複野同等以上
- 衝突防止マーク　φ40　SUS製HL
- 非常用進入口表示マーク　・ プラスチック製　　反射シール
- 室名板　⊙ 図示による
- 階段表示板　⊙ 図示による
- ネームプレート　・ 図示による。
- サイン　㊟ 図示　　・ メーカーの責任施工による。
  - ・日本タイポグラフィ協会会員のデザインによること。（島津環境グラフィックス（有））
- 煙突・ライニング　・ 図示による。
- 横形ブラインド　材種　※ アルミニウム製　・
  - 開閉方式　※ ギヤ式　・ コード式
  - スラット　※ 25型
  - ヘッドボックス及びボトムレール　※ アルミ製
- 縦形ブラインド　材種　・ アルミニウム製　・ クロス　・
  - スラットの成形巾　・ 100　・ 80
- ロールスクリーン　全ての開口部
  - 立川ブラインド工業（株）
- カーテン（防炎認定品）　カーテンの吊り形式　カーテンきれ地の品質及びひだの種別等

施工箇所	品質	ひだの種別	形式	備考
図示	図示	2倍ひだ	図示	川島織物（株） （株）サンゲツ同等以上

  - ・ 暗幕カーテンの重ねかけ寸法　※　300
- カーテンレール　材種　※ ステンレス　・ アルミニウム製
  - 形状　※ C型又はD型　・ エ型
  - レール　⊙ シングル　・ ダブル
- カーテンボックス　⊙ W150×H100×厚25　タモ集成材
- アコーディオンドア　・ 防炎加工ビニールレザー張り
  - 形式　⊙ 両開き　・ 片開き
  - 折りたたみ巾　　mm
- コーナービート　材種　・ ステンレス製　・ アルミ製　⊙ プラスチック製　・ 木製
  - 高H　※　2．0m　　・ 天井まで
- 天井見切縁　※ アルミニウム製　　⊙ 塩化ビニル製　　・ 木製
- ジョイナー　種別　⊙ 塩化ビニル製
- くつふきマット

材種	受け枠
・ 塩化ビニル又はゴム	・ ステンレス製
・ 硬質アルミニウム合金	・ 硬質アルミニウム合金
⊙ ステンレス製	⊙ ステンレス製

  - 水抜パイプ　※ 有　・ 無
- グリーストラップ　・ ステンレス製既製品　1000×600程度
- 床用点検口　⊙ ステンレス製既製品　防水防臭型　樹脂タイル貼　600□　鍵付
- 天井点検口　⊙ アルミ製　450角　ステンレス目地棒共
- 郵便受　・ 図示による　　既製品　MX102／田島メタルワーク同等以上
- 学校間仕切壁　厚90　スチール製学校間仕切　スチンド　SA－90　木目鋼板／山金工業同等以上
  - 小松ウォール工業・山金工業・日本スピンドル同等以上
- 体育器具　※ 別図
- 金属巾木　アルミ巾木　単色焼付塗装　／　姫路メタルアート同等以上
- ⊙ 便所内手摺　⊙ 図示（既設流用）
- ⊙ 内部補助手摺　⊙ I型　L=800　　NS-TB00／立工業同等以上　　【設置場所：玄関及び脱衣室】
- 内部階段手摺　・ SUS製　34φ　支柱φ34　／姫路メタルエ業同等以上
- 外部階段手摺　・ 樹脂製　40φ　（外部用）　O－40G／ナカエ業同等以上
- 救助袋　・ 図示による

第２０章　ユニット及びその他の工事（続）

- 舞台下収納台車　※ 別図
- ピクチャーレール　アルミ既製品、フック：2個／m
- 壁面掲示板　㊟ 図示
- ベット
- 浴室用時計
- 置家具・備品　・ 図示のリストによる。現場にて監督員と調整の上、見直しを行う。
- 物干し金物　※ 既製品　　・ 図示
- 屋上丸環　材種　　・ ステンレス
- アンテナ支持金物
- スリーブ
- 止水板　塩ビ製既製品　センターバルブ形コルゲート　200×5
- 視覚障害者用誘導ブロック　材種　⊙ 塩化ビニル系　⊙ 磁器質タイル　⊙ レジンコンクリート系　⊙ MMA樹脂製
  - 厚さ　t=30　t=80　mm　　寸法　300×300
- 点字鋲　安全交通試験研究センターの仕様による。
- 車止め　・ 可動式　　⊙ 固定式
  - 材種　　⊙ コンクリート既製品　　・ 鋼製既製品
- 旗ざお　材種　※ アルミニウム製
  - 形状　※ テーパー型　・ 同一断面型
  - 高さ　・　m　・　m
- 旗ざお受金物　材種　※ ステンレス製市販品
- フェンス　形式　・ 目隠しフェンス　AM-1500-M LAブラインド／朝日スチール工業同等以上
  - ・ メッシュフェンス
- 塀　※ 図示　・　樹脂製竹垣　四国化成工業（株）「和なごみ　御廣垣　横縞」同等
  - ・ 木製フェンスH＝1000　四国化成工業（株）「グランウッドフェンス2型」同等
- 門　扉　材種　・ ステンレス製　・ 鋼製　・ アルミ製　・ アルキャスト製
  - 開閉方法　・ 電動　・ 手動
  - 転倒試験　※ 行う　・ 行わない
  - ※ メーカー責任施工
- 間知石及びコンクリート間知ブロック積み　間知石の材種　※ 亀山石　・ 御影石
  - コンクリート間知ブロック面の形状
  - ・ 長方形　・ 正方形　・ H形　・ 六角形
  - ＪＩＳによる重量区分　※ ブロックA　・ ブロックB
  - 練積みの工法　※ 谷積み　・ 布積み
  - 目地切　・ 行う　・ 行わない
  - 伸縮目地材の材種及び厚さ　※ 図示
- 敷地境界石標　種別　・ A種　※ B種

第２１章　排水工事

※ 一般事項　工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。

- 排水管

材種	規格	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	ＪＩＳ　A5372	
⊙ 硬質塩化ビニル管	ＪＩＳ　K6741	
・ 硬質塩化ビニル管（継手）	ＪＩＳ　K6739	

- 排水桝

種別	形状 寸法 構造 種類	備考
⊙ コンクリート桝	㊟ 図示	
⊙ 既製品桝	※ 図示	

- マンホール蓋　材料　※　ＪＩＳ　G5501　3種FC20　又は　ＪＩＳ　G5502　3種FCD50
  - 形式　・ 完全防水防臭　・ 強度（　t）
  - ・ 防臭型　・ 強度（　t）
  - ・ 鍵　付
  - ※ 車両通行部分は強度20t以上とする
- 側溝蓋　・ 鋳鉄製グレーチング　・
  - ⊙ 鋼製グレーチング　（　細目ノンスリップタイプ　）　・
  - ・ コンクリート製　・

第２２章　舗装工事

※ 一般事項　工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。

- 路　床　遮断層　材料※　川砂　海砂又は良質な山砂
  - 凍上抑制層の材料　・
  - 盛土の材料　・
  - ＣＢＲ試験　・ 要　⊙ 不要
  - 路床の締固めの度の試験　・ 要　⊙ 不要
- 路　盤

種別		品質
砕石	・ クラッシャラン	
砕石	・ 粒度調整砕石	
再生材	⊙ クラッシャラン	RC－40
再生材	・ 粒度調整砕石	
	・ クラッシャラン鉄鋼スラグ	
	・ 粒度調整鉄鋼スラグ	
	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	
	・ 切込み砂利（最大粒径40mm以下）	

- アスファルト舗装

表層	⊙ 一般地域	⊙ 密粒度アスファルト混合物（13）
		・ 細粒度アスファルト混合物（13）
	・ 積雪地域	・ 細粒度アスファルト混合物（13F）
		・ 細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層		・ 細粒度アスファルト混合物（20）

  - アスファルト版の厚さ検査　⊙ 行う　・ 行わない
  - シールコート　・ 行う　⊙ 行わない
  - アスファルト混合物の抽出試験　・ 行う　⊙ 行わない
  - 平担性　※ 「標仕」による
- コンクリート舗装（犬走り）　※ 「標仕」による
  - コンクリート版の厚さ検査　⊙ 行う　・ 行わない
  - 平担性　※ 「標仕」による
- 特殊舗装

名称	種類	備考
・ カラー舗装		車寄せ部分の舗装は色をつける
・ 透水性舗装		
・ 排水性舗装		
・ コンクリート平板舗装	洗い出し平板	300×300×60　砂利サイズ6～9mm
・ インターロッキングブロック		200×200×60（80※車道用） Heart Land Pave／カボタセメント工業株式会社　同等品以上
・ 舗　石		

  - 平担性　※ 「標仕」による
- 街きょ縁石及び側溝　⊙ 縁石　形状及び寸法　⊙ 図示　・
  - ⊙ 側溝　形状及び寸法　⊙ 図示
  - ・ コンクリート強度　・　18N
- 勾配敷き　・ 「標仕」表22．10．1による。
- 区画線　⊙ W-100

第２３章　植栽工事

※ 一般事項　工事に先立ち施工計画書を作成し監督職員の承諾を受けること。

- 植栽基盤の工法　樹木　※ A種　・ B種　・ C種　・ D種
  - 地被類　・ A種　※ B種　・ C種　・ D種
- 植樹種　⊙ 図示　・
- 植え込み用土　※ 現場発生土の良質土　・ 客土（　）　300
  - 東邦レオ（株）「ビバソイル」同等
- 土質改良材　※ 「標仕」23．2．3（b）による
- 支柱　種類　・ 図示
- 枯損樹木等の植替　対象期間　※ 引渡し日より1年
- 芝張り吹付け　は種その他　芝種別　※ こうらい芝　・ 野芝　・
  - 工法　平地　※ 目地張り
  - 切り土の面　※ ベタ張り
  - 盛り土の り面　※ 筋芝張り
  - 客土　※ 行う　・ 行わない
  - 土性測定　・ 行う　・ 行わない
  - 硬度測定　・ 行う　・ 行わない
  - 種子量　・
  - 施肥養生　※ 行う　・ 行わない
- 屋上等の植栽　耐根シート　・ 使用する　・ 使用しない
  - 東邦レオ（株）耐根・防水排水システム「グリーンプランボードシステム」t＝40同等
- 樹名札　・ 材質　・ 大きさ
- 樹木管理書　・ 植栽工事業者は工事完了時、樹木管理手引書を係員に提出のこと。
  - 内容
    - 1年目の内容
    - 2年目以降の内容
    - 年間を通して（季節毎）の管理内容
    - 消毒剤の種類と量
    - 施肥
    - 剪定・　除草の時期、その他

加東市役所
〒673-1493　兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301（代表）

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化	工事設計図	作図年月日 '22.8	縮尺 A3縮小 - -	承認	承認	担当	担当	担当	物件番号 22023	図面番号 A－005
特記仕様書4										

第２４章　その他　追記事項

※　提出書類

項目	書　類　内　容	期　　間	部数	備　　考
○	契約書控	契約後７日以内	2	
○	着工届	〃	2	
○	全体工事工程表	〃	2	
○	月間工程表	毎月	2	
○	現場代理人及び主任技術者承認願書	契約後７日以内	2	経歴書添付
	現況測量図	〃	1	高低差含む
○	現場施工要領図・施工計画書	〃	2	施工計画書添付
○	下請業者承認願書	着工前３日以内	2	経歴書添付
○	工事写真	各工程ごと、特に隠蔽部は多めに撮る事、建築、電気、設備共	2	
○	工事日報	毎週月曜日提出	2	
○	材料承認願い		2	
○	各種報告書		2	
○	コンクリート調合表及強度表	コンクリート打設３日前までに提出	2	
	桟打耐力表		2	
○	現寸検査要領	検査の３日前までに連絡		
	中間出来高明細書	契約による出来高月日の５日以内	2	中間払いの条件がある場合
	中間払い請求書	〃	2	〃
○	各工事施工図	各工事着工前７日以内 ※竣工後は捺印の上、製本提出	2	保守連絡先名簿含む
○	完了届	工事完了後竣工検査願と共に	2	
○	竣工検査願	工事完了後	2	
○	手直検査願	手直完了後	2	
○	工事完了内訳明細書	竣工月・日	2	
○	竣工図	竣工検査後	3	黒文字タイトル入り製本
○	設備関係説明書	〃	2	
○	請求書	〃	2	
○	保証書		2	
○	竣工写真	工事完了後	2	アルミ額（３９０×３４０程度）入りカラー４つ切り
○	一年後検査手直報告書	一年検査後	2	

別紙一覧表による

注）提出書類は必ず係員の承認を受け、施工者においても一部は保管の事。
　質疑打合せは必ず事前に文書をもって係員に提出の事。
　回答は文書又は工程会議等にて指示する事とする。　※施主・監理者に提出。
提出書類は、竣工時にファイル綴じし、提出すること。

※　その他

※　施工上の納まり、取り合い等で、材料寸法、取り付け位置、取り付け寸法において
生ずる軽微な変更及び測量誤差に起因する地盤高、道路、水道、配管等の軽微な変更は
工事増減なく、監督員の指示に従って行うこと。

※　本設計図書に記載の無い事項で技術上、外観上当然施工しなければならない事項は、請負者の
負担において施工すること。

※　見積もりに当たっては、現場を十分確認の上、図面及び仕様書を主体として、当事務所の
内訳書がある場合は、あくまで参考とし、数量等を詳細に積算の上、見積もりをするものとする。

※　工事のための近隣への損害を与えた場合、補償及び補修は請負者の負担とする。

※　近隣に対して、着工前に適当なる処置をなし、工事を円滑に行うようにすること。

※　現場には、必ず設計図、見積書、標準仕様書（最新版）を各一部置いておくこと。

※　工事の打ち合わせ及び決定事項については、現場主任及び各工事責任者と監督員の間で行い、
全ての事項を記録に留めておくこと。

※　設計図書に指示のある事項であっても、施工者が適当ではないと判断したものは、事前に
訂正を申し出て、監督員の指示通り施工すること。適当でないと知りつつ施工してはならない。

※　総合図の作成

※　各工事の施工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し監督員の承諾を
受ける。総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事の情報
を全て盛り込み調整を行うこと。

※　総合図の調整は建築工事請負者が行うものとし、設備工事等他の工事請負者が
これに協力する。

※　総合図は天井面を投射した平面詳細図（１／５０）を基本とするが、天井伏
家具備品のレイアウトを記入すると共に、展開・仕上割付等も記入すること。
重要な部分、複雑な部分又は監督職員の指示する部分については、天井内取合図、
詳細図等により調整を行うものとする。

※　総合図は平面詳細図、展開図、天井伏図全てにおいて作成すること。

第２４章　その他　追記事項（続）

※　見本施工

※　特記による他、性能を満足することを確認するため見本施工が必要と判断される
場合、あるいは監督員の指示のある場合は、施工内容・仕上げの程度等が判断
出来る見本施工を行い、監督員の承諾を得た上でそれにならい施工すること。

※　環境対策

※　　建設副産物を少なくし、かつ仮設・養生材の減量を図ることが出来る、環境にや
さしい材料・工法を適用すること。
※　適切な廃棄物処理を行うと共に、廃棄物量の削減に努めること。
※　特記による他、使用材料は極力エコマテリアル（リサイクルの容易な材料、環境
負荷の少ない材料等、環境にやさしい材料）を使用するものとする。
※　　内装材・接着剤・塗料他は、特記による他、低ホルムアルデヒド・低トルエン
低キシレン材料を使用すること（Ｅ０、Ｆ☆０同等以上）。又材料全般について、
アスベスト・重金属等の有害物質を含まない材料を使用すること。特に石膏ボ
ードについてはヒ素、カドミウム、鉛等を含まないものとする。
※　上記記載内容については、監督員の承諾を得ること。

※　アスベスト含有建材の取扱

解体撤去工事及びアスベスト除去工事　特記仕様書によること。

※　既設カーテン

※　カーテンは基本的に既設のままとすること。
ただし、工事に支障がある場合は、施工者の責任において仮撤去・再取付すること。

第２４章　その他　追記事項（続）

建築改修工事特記仕様書

※　改修工事以外は、特記仕様書による

Ⅰ　建築改修工事仕様

1．共通仕様
（1）図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房営庁営繕部の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成２８年版）」（以下、「改修標仕」という。）による。また、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成２８年版）」（以下「標仕」という。）による。
（2）改修標準仕様書で「特記がなければ」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（１．１．１３）の規定を優先する。なお、関係法令を遵守する場合は具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2．特記仕様
（1）項目は、番号に　印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、☉ 印の付いたものを適用する。
☉印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
☉ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の［　　］内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（5）Ⓖ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は現場説明書による。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	①一般事項	※　特記仕様書参照
	②発生材の処理等	※ 構外搬出適切処　・理現場説明書による
	③環境への配慮	化学物質を放散させない建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するとと共に、次の１）から５）までを満たすものとする。 １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ２）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ３）接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ５）１）、３）及び４）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS 及び JAS の Ｆ☆☆☆ 品 ②建築基準法施行令第 ２０ 条の ７ 第 ４ 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS適合品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 ｆ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS 及び JAS の Ｆ☆☆ 品 ②建築基準法施行令第 ２０ 条の ７ 第 ３ 項による国土交通大臣認定品 ③旧 JIS の Ｅo 品 ④旧 JAS の Ｆco 品
	④材料の品質等	本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。［1.4.2 材料・機材等の製造業者等は次の（１）から（６）までのすべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。 （１）品質及び性能に関する試験データ が整備されていること （２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること （３）安定的な供給が可能であること （４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること （５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること （６）販売、保守等の営業体制が整えられていること ※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成１８年２月１５日）に準拠した証明書を、監督職員に提出する。
	⑤特別な材料の工法	改修標仕及び、標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	⑥施工数量調査	調査範囲及び調査方法　※ 図示 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　　※ 図示
	⑦埋設配管・配線調査	※ 既存資料調査 ・ 放射線透過試験 労働安全衛生法、「電離放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次による。 （1）作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明するものとし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。 （2）放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立入禁止措置を講ずる。 （3）露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。 （4）付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものの有無を確認する。 （5）躯体の墨出しは、表裏でズレがないように措置を講ずる。 撮影枚数　　枚 フィルムサイズ コンクリート厚さ　　ｃｍ
	⑧工事写真	工事写真 の撮り方（改訂第二版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） 解体撤去前の写真、解体中に露になった部分の写真、問題や検討が必要な部分の写真は必ず撮影し、監督員に提示すること。

章	項目	特記事項
② 仮設工事	①足場その他	☉内部足場　　種別　※ きゃたつ、足場板等　・図示　［2.2.1］ ・外部足場　［2.2.1］[表 2.2.1] 種別　※ Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 防護シートによる養生　※ 行う　・ 行わない ハツリ工事を伴う工事を行なう建物は防音シート張りとする 材料、撤去材等の運搬　［2.2.1］[表 2.2.2] ・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　［2.2.1］ 足場を設ける場合、改修標仕２．２．１（ｂ）によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」による。
	②養生	既存部分の養生　※ ビニルシート等　［2.3.1］ 既存家具等の養生　※ ビニルシート等 固定家具等の移動　※ 行わない　・ 行う（図示）
	③仮設間仕切	仮設間仕切り等の種別　［2.3.2］[表 2.3.1] 種別：下地：仕上材（厚さ mm）：塗装 ・Ａ種：※軽量鉄骨・合板（※ 9.0 ・　　）：※ 無し ・Ｂ種：・木下地：※ せっこうボード（※ 9.5 ・　　）：☉片面 ※ Ｃ種：単管下地：防炎シート 仮設扉：※ 木製扉：※ 合板張り程度：※ 無し ・ 鋼製扉：※ 片面フラッシュ程度：・ 有り 充てん材　※グラスウール　32K（厚：50mm以上）　・　［2.4.1］[表 2.4.2]
③ 防水改修工事	①アスファルト防水	［3.3.2、3］[表 3.1.1][表 3.3.3～10］ 防水改修工法の種類：施工箇所：新規防水層の種別 保・Ｐ１Ｂ：：・Ｂ －1　※Ｂ －2 護・Ｐ１Ｂｉ・Ｔ１Ｂｉ：：・ＢＩ－1　※ＢＩ－2 防・Ｐ２ＡＩ：：・ＡＩ－1　※ＡＩ－2 水・Ｐ２Ａ：：・Ａ －1　※Ａ －2 露出・Ｍ４Ｃ：：・Ｃ －1　※Ｃ －2 防水・Ｍ３Ｄ・Ｐ０Ｄ：：・Ｄ －1　※Ｄ －2 屋内防水・Ｐ１Ｅ・Ｐ２Ｅ：：・Ｅ －1　※Ｅ －2（保護層は図示による） アスファルトの種類　※ ３種　［3.2.2］[3.3.2］ 保護コンクリートのコンクリート種類　※ 無筋コンクリート　［3.3.2］ ＰＯＤ工法の改修ドレン　※ 設けない　・ 設ける　［3.2.5］ Ｍ３Ｄ、ＰＯＤ工法の脱気装置　※ 設けない　・ 設ける　［3.3.3］ 既存露出防水層表面の仕上げ塗装（Ｍ４Ｃ工法の場合）　・ 除去する　［3.2.6］ 断熱工法の断熱材　厚さ（mm）※ 25　ただし、ノンフロンのもの　Ⓖ　［3.3.2］ 立上り部の保護　［3.3.2］ ・ れんがの種類　※ 見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形コンクリートブロックとする。 ・ 乾式保護材の材料　※ 押出成形セメント板　厚さ 15mm 伸縮目地　・アスファルト目地　・既製目地　目地幅２５ エキスパンダイＴ５５型　ドラーフタイトＴＰＳ サンタックレベラーＦ型　クラクタイトポリソフト
	②改質アスファルトシート防水	［3.4.2］[表 3.1.1][3.4.3］[表 3.4.1～3］ 防水改修工法の種類：施工箇所：新規防水層の種別：厚さ（mm） ・ＭＡＳＩ工法：：・ＡＳ－1・ＡＳ－2・ＡＳ－3 ・ＭＡＳＴ工法：：・ＡＳ－4・ＡＳ－5・ＡＳ－6 ・ＰＯＡＳＴ工法：： ・ＭＡＳＩ工法：：・ＡＳＩ－1　・ＡＳＩ－2 ・ＭＡＳＩ工法：： ・ＭＡＳＩ工法：： 脱気装置　※ 設けない　・ 設ける　［3.5.2］[表 3.1.1][3.5.3］[表 3.5.1,2］
	③合成高分子系ルーフィングシート防水	防水改修工法の種類：施工箇所：新規防水層の種別：仕上げ塗料：使用分類 ・ＰＯＳＴ工法：：・Ｓ－Ｆ１・Ｓ－Ｍ１：※カラー・シルバー：※非歩行・☉軽歩行 ・ＳＡＳＴ工法：：・Ｓ－Ｆ２・Ｓ－Ｍ２：： ・ＳＢＳＴ工法：：・Ｓ－Ｍ３：： ・ＭＡＳＴ工法：：・Ｓ－Ｍ１・Ｓ－Ｍ２：： ・Ｓ－Ｍ３：： ・ＰＯＳＩ工法：：・ＳＩ－Ｆ１・ＳＩ－Ｆ２：： ・ＳＢＳＩ工法：：・ＳＩ－Ｍ１・ＳＩ－Ｍ２：： ・ＳＡＳＩ工法：： ・ＭＡＳＩ工法：： 脱気装置　☉ 設ける　・ 設けない　［3.5.3］ 目地処理　ＰＣコンクリートの場合（　　）　［3.5.4］ 既設防水改修履歴　無し 部分改修を行う場合は、既設と同一メーカーを使用する事とする。（10年保障は無し）
	④塗膜防水	［表 3.1.1][3.6.3］[表 3.6.1～2］ 防水改修工法の種類：施工箇所：新規防水層の種別：仕上げ塗料塗り ・ＰＯＸ工法：：※ Ｘ－1：・ シルバー ☉ＬＡＸ工法：PH屋根、庇：※ Ｘ－2：☉ カラー ・Ｐ１Ｙ工法：：※ Ｙ－1： ・Ｐ２Ｙ工法：：※ Ｙ－2： 既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（ＬＡＸ工法の場合）　・ 除去する　［3.2.6］ 脱気装置　※ 設けない　・ 設ける　［3.6.3］ ・排水側溝　パラテックス　Ａ－1工法
	⑤既存下地の補修及び処理	ＬＡＸ工法の既存塗膜防水層表面の仕上げ塗料の除去 ・デッキブラシで水洗い　☉高圧水洗浄（30MPa）
	⑥施工票	・工事完了後に監督員の指示する位置に取り付ける。
	⑦脱気装置	［3.3.3］[3.4.3］[3.5.3］［3.6.3］ 種類：材質：設置数量 ・平面部脱気型：・ポリエチレン樹脂　・ＡＢＳ樹脂　・ステンレス　・鋳鉄：（　　）m² 当たり１箇所 ・立上り部脱気型：・合成ゴム　・塩化ビニル樹脂　・ステンレス　・銅：（　　）m² 当たり１箇所 ・主材料製造所の指定による
	⑧シーリング	［3.7.4～7］[表 3.7.1］ シーリング改修工法の種類 ☉ シーリング充てん工法　・ シーリング再充てん工法 ・ 拡幅シーリング再充てん工法　☉ ブリッジ工法 接着性試験　※行う　（※簡易接着性試験　・引張接着性試験） ・行わない

章	項目	特記事項
③ 防水改修工事	９といの	といの材種　［3.8.2］[表 3.8.1］ ※ 配管用鋼管　☉ 硬質ポリ塩化ビニル管（カラー・150φ以下） ☉ 硬質ポリ塩化ビニル管（200φ） ・ 建物様水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP)　Ⓖ 鋼管製といの防露　［3.8.3］[表 3.8.4］ ・ 次の箇所は行わない（　　） ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外　・ 第三種 掃除口　※ 有り　・ 無し　［3.8.3］ 縦どい受け金物の取付け ※ 図示　・ 標仕 13.5.3 (d)(2) による
	10アルミニウム製笠木	［3.9.2］[表 3.9.1］ 種類：呼称肉厚（mm）：表面処理：固定間隔：備考 ☉ 250形：1.6以上：※Ａ－1 又はＢ－1 種：固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの：隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。 ・ 300形：1.8以上：・Ｂ－2 種（　　） ・ 350形：2.0以上：・Ｄ種 ・ 100形 板材折曲げ形の取付工法　・ 図示　［3.9.3］ 工法 既存笠木等の撤去　☉ 行う（範囲 ※ 図示　・　　） 撤去復旧 板材折曲げ形の笠木の取付方法　※ 図示
	11折板葺	［3.9.2、3］[表 13.2.1］ 形式：※ 重ね形　・ はぜ締め形　・ かん合形 形状（mm）：山高（　　）　山ピッチ（　　）　板厚　※0.6・0.8 材料（規格等）：※ 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（ＧＬＣＣＲ－20－ＡＺ 150） 軒先面戸板：※ 有り　・ 無し 断熱材：※ 有り（種別：　　厚さ：　mm）　・ 無し 防火性能：※ 30 分耐火　・ 無し
④ 外壁改修工事	１施工数量調査	調査範囲　※ 外壁改修範囲　☉全外壁　［1.5.2］ 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 調査報告書を監督職員に提出し、確認を受けること。 調査報告書の部数　※ ２部
	２施工票	・工事完了後に監督員の指示する位置に取り付ける。
	３改修材料	・ 既製調合モルタル　［4.2.2］ 保水率（%）：単位容積質量（kg/ｌ）：接着強さ（N/mm２）標準時：接着強さ（N/mm２）温冷繰返後：長さ変化率（%）：曲げ強さ（N/mm２） 70.0以上：1.80程度：0.60以上：0.40以上：0.20以下：4.0以上 ・ パテ状エポキシ樹脂　［4.2.2］ 初期硬化性：接着強さ：圧縮強さ：曲げ強さ：硬化収縮率 2.0N/mm2以上：6.0N/mm2 以上：50.0N/mm2 以上：30.0N/mm2 以上：3.0（%）以下 ａ．均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 ｂ．対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 ｃ．常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間又は製造後６か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。 ・ 可とう性エポキシ樹脂　［4.2.2］ 性能：常温物性：低温性：加熱変化：引張接着性 引張強さ：1．0N/mm 以上：1．0N/mm 以上：1．0N/mm 以上：最大引張応力　1．0N/mm² 伸び：３０．０%以上：３０．０%以上：３０．０%以上：破断時の伸び１０%以上 比重　表示値±０．１０ 押出し性　６０秒以下 スランプ　３mm以下 加熱減量　５%以下 ａ．均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 ｂ．対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 ｃ．常温・常湿（温度２０±１５℃、湿度６５±２０%）において製造所の指定する期間又は製造後６か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。 ・タイル部分張替え用エポキシ樹脂　［4.2.2］ 接着強さ：標準：低温硬化：アルカリ温水：冷熱水中繰返：熱劣化 強度(N/mm2)：0.60以上：0.40以上：0.40以上：0.40以上：0.40以上 凝集破壊率(%)：75以上：50以上：50以上：50以上：50以上 皮膜物性：標準：高温：低温：アルカリ温水：熱劣化 引張強さ(N/mm2)：1.00以上：1.00以上：1.00以上：1.00以上：1.00以上 伸び（%）：30以上：30以上：30以上：20以上：20以上 貯蔵安定性　容積と粘度に著しい変化がないこと。 耐熱性　JIS A 5548 に準じた試験において、８０℃で４週間、９．８N おもりで安定していること。 ａ．外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。 ｂ．タイル、石材、下地等を侵すものでないこと。 ｃ．「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」に基づく特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 ｄ．常温・常湿（温度２０±１５℃、湿度６５±２０%）において製造後６か月保存しても上記の品質性能に適合していること。 ｅ．ずれ抵抗性があること。 ｆ．混練終結時の確認が容易なように色が明瞭であること。 ☉ エポキシ樹脂モルタル　［4.2.2］ 接着強さ：圧縮強さ：曲げ強さ 1.0 N/mm2 以上：20.0 N/mm2以上：10.0N/mm2 以上 ａ．こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 ｂ．均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 ｃ．「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 ｄ．形状に異常が無く、だれが生じないこと。 ｅ．常温・常湿（温度２０±１５℃、湿度６５±２０%）において製造後６か月保存しても上記の品質性能に適合していること。

章	項目	特記事項
④ 外壁改修工事		☉ポリマーセメントモルタル　［4.2.2］ ポリマーセメントモルタルの種類 合成ゴム系、アクリル系、エチレン－酢ビ系等 曲げ強さ（N/mm2）：圧縮強さ（N/mm2）：接着強さ（N/mm2）標準時：接着強さ（N/mm2）湿潤時：低温時 0.5以上 6.0以上：20.0以上：1.0以上：0.8以上 表面状態　だれの下がり量は ５mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。 透水性　表面の濡れ、水滴の付着がないこと。 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 ・ポリマーセメントスラリー　［4.2.2］ 広がり速度（cm/s）：長さ変化率（収縮）：引張接着性（材齢28日）：曲げ性能（材齢28日）：吸水性（72時間）：耐久性（劣化曲げ強さ） ３ 以上：3% 以下：0.5N/mm2 以上：5.0N/mm2 以上：15%以下：5.0N/mm2 以上 保水係数　０．３５～０．５５ 粘調係数　０．５０～１．００ ・吸水調整材　［4.2.2］ 項目：全固形分（%）：吸水性（g）：接着強さ(N/mm2)：界面破断率（%） 品質・性能：表示値±1%以内：30分間で1g以下：0.98 以上：50% 以上 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
4-1 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁	１ひび割れ部改修工法	※ 樹脂注入工法　［4.1.4］[4.3.4～6］ 注入工法の種類：ひび割れ幅(mm)：注入口間隔(mm)：注入量（ml/m）：備考 ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法：0.2以上～1.0 以下：※ 200～300：※ ・ 手動式エポキシ樹脂注入工法：0.2以上～0.3 未満：：・ ：0.3以上～0.5 未満：※ 100～200：※ 70 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法：0.5以上～1.0 以下：※ 150～250：※ 130 ：：・ 注入材料　［4.2.2］ ※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形） 確認（コア抜取り）　※ 行わない　［4.3.4］ ・ 行う（抜取り部の補修方法：　　） ☉ Ｕカットシール材充てん工法　［4.1.4］[4.2.2］[4.3.5］ 充てん材料：品質・規格等：備考 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ用材料：※ １成分形又は２成分形 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充てん ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　※行わない ・ 行う ※可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂： ☉ シール工法　［4.1.4］[4.2.2］[4.3.6］ ☉ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
	２欠損部改修工法	※ 充てん工法　［4.1.4］[4.2.2］[4.3.7］ ☉ エポキシ樹脂モルタル ☉ ポリマーセメントモルタル
4-2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	１既存モルタル塗撤去 ２ひび割れ部改修工法	・行う（※ 全面　・ 図示の範囲） ・既存モルタル撤去工法（範囲は図示撤去部分の補修は、３欠損部改修工法による） ※ 樹脂注入工法　［4.1.4］[4.4.2］[4.4.5］ （※ 既存モルタル面 ・ 既存躯体コンクリート面） 注入工法の種類：ひび割れ幅(mm)：注入口間隔(mm)：注入量（ml/m）：備考 ※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法：0.2以上～1.0以下：※ 200～300：※： ・ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法：0.2以上～0.3未満：※ 50～100：※ 40 ：0.3以上～0.5未満：※ 100～200：※ 70 ・ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法：0.5以上～1.0以下：※ 150～250：※ 130 ：：・ 注入材料　［4.2.2］ ※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形） 検査（コア抜取り）　※ 行わない　［4.3.4］ ・ 行う（抜取り部の補修方法：　　） ・ Ｕカットシール材充てん工法　［4.1.4］[4.2.2］[4.4.6］ 充てん材料：品質・規格等：備考 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ用材料：※ １成分形又は２成分形 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材：ポリマーセメントモルタルの充てん ※ 行わない ・ 行う ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法　（※ 既存モルタ 面 ・ 既存躯体コンクリート面） ・ パテ状エポキシ樹脂　［4.1.4］[4.2.2］[4.4.7］ ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ 既存塗り仕上げ材の撤去及び補修　［4.4.2］[4.6.3］ （※ シール工法の範囲　・　　）
	３欠損部改修工法	既存モルタル面の欠損部　［4.1.4］[4.4.8～9］ 改修工法の種類：材料：品質・規格等 ☉ 充てん工法：・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ ※ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ： ・ ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法：改修標仕 4.2.2(g) による塗り厚 25mm を超える場合の補強：※ 行う ・ 行わない ・ 図示 既製目地材　・ 適用する（形状　※ 図示　・　　）　［4.2.2］
	４浮き部改修工法	［4.1.4］[4.4.10～15］[表 4.4.3～4］ 改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）：ピンの本数(本/m2)：一般部：指定部：注入口数(箇所/m2)：一般部：指定部：充てん量 ・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分注入工法：※ 16：※ 25：：：：※ 25ml ・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面注入工法：※ 13：※ 20：※ 12：※ 20：※ 25ml ・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法：※ 13：※ 20：※ 12：※ 20：※ 50ml ・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法：※ 9：※ 16：：：※ 25ml ・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法：※ 9：※ 16：※ 9：※ 16：※ 25ml ・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法：※ 9：※ 16：※ 9：※ 16：※ 50ml アンカーピン　［4.2.2］ 材質　※ ステンレス SUS 304、呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン　［4.2.2］ 材質　※ ステンレス SUS 304、呼び径外径 6mm

4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁

項目	特記事項
1既存タイル張りの撤去	・ 外壁タ イル張り全面 ・ 図示の範囲 撤去範囲 ※ 下地モルタ ルまで ・ 張付けモルタルまで ・ タ イルのみ
2ひび割れ部改修工法	改修箇所 ※ 既存タ イル張り面 ・ 既存タ イル撤去面（・ コンクリート面 ・ モルタ ル面）

※ 樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.4][4.5.5]

	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)	備 考
※	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	※ ・	
・	手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	※ 50～100	※ 40	
		0.3以上～0.5 未満	※ 100～200	※ 70	
・	機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	※ 150～250	※ 130	

注入材料 [4.2.2]
※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形）

検査（コア抜取り） ※ 行わない [4.3.4]
・ 行う（抜取り部の補修方法： ）

・ Uカットシール材充てん工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4][4.2.2][4.5.6]

充てん材料	品質・規格等	備 考
・ｼｰﾘﾝｸﾞ用材料	※ 1成分形又は2成分形 ﾎﾟﾘｻﾙﾌｫﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙのの充てん ※ 行わない ・ 行う
・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂		

3欠損部改修工法	⊙ タイル部分張替え工法	[4.1.4][4.2.2][4.5.7]

接着材の種類	品質・規格等
※ ポリマーセメントモルタル	
・ 変成シリコン樹脂 ・ エポキシ樹脂 ・ ポリウレタン樹脂 ・ シリコン樹脂 ・ タイル部分張替工法用接着剤	「建設省官民連帯共同研究報告書『有機系接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発』（建設大臣官房技術調査室監修 平成 9年 2月）」における「外装タイル・石張り用接着剤の品質基準（案）」に基づく品質性能試験に適合するタイプ1であり監督職員の承諾するもの又は特記による。

・ タイル張替え工法 [4.1.4][4.5.8]
伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地
位置 ※ 改修標仕表 4/5.1 による ・ 図示 [4.5.8][表 4.5.1]

4浮き部改修工法	[4.1.4][4.5.9～15][表 4.4.3、4]	

改修工法の種類（タイルを撤去しない場合）	ﾋﾟﾝの本数(本/m2) 一般部	指定部	注入口数(箇所/m2) 一般部	指定部	充てん量 注入量
・ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分 ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※ 16 ・	※ 25 ・			※ 25ml ・
・ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面 ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	※ 25ml ・
・ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	・25ml ※ 50ml
・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分 ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・			
・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面 ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 25ml ・
・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 50ml ・
・ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 50ml ・

アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ ステンレス SUS 304、呼び径 4㎜ の丸棒で全ネジ切り加工したもの
注入口付アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ ステンレス SUS 304、呼び径外径 6㎜

5陶磁器質タイル張り	タイルの種類	[4.2.2][4.5.7～8]

用途区分 施工箇所	形状 寸法(㎜)	吸水率区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	釉薬 施釉	無釉	役物 有	無	色 標準	特注	再生材 適用G	耐凍害性 有	無

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする。
タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う
壁タイル張りの工法 [4.5.7～8][表 4.5.4]
外装タイル ・ 密着張り ・ マスク張り
タイルの試験張り ※ 行わない ・ 行う

6目地改修工法	・ 目地ひび割れ部改修工法	[4.1.4][4.5.16]
	・ 伸縮目地改修工法 シーリング用材料 種類 ※ 改修標仕表 3.7.1 による	[4.1.4][4.5.16] [3.7.2][表 3.7.1]

4-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁

項目	特記事項
除去及び下地処理	既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 [4.6.3][表4.6.1～4]

工 法	処理範囲	下地面の補修
・ サンダー工法	※ 既存仕上面全体 （既存塗膜の除去範囲は処理面積の 30% とする）	4-1又は4-3による
※ 高圧水洗工法 加圧力 ※ 50MPa以上 ・	※ 既存仕上面（改修範囲のみ） （既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする）	
・ 塗膜はく離剤工法		
・ 水洗い工法	※ 上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・	

②下地調整材 ※ 下地調整塗材（※C－1○ ・C－2 ・CM－2 ・ ） [4.2.2][4.6.4]
⊙ ポリマーセメントモルタル
・ 防水形仕上げ塗材主材を使用

項目	特記事項
3仕上げ塗材	[4.1.4][4.2.2][表4.2.3～4]

種類、仕上げの形状、工法

種 類	呼び名	仕上げの形状
⊙薄付け仕上仕塗材	・ 外装薄塗材Ｓｉ ・ 可とう形外装薄塗材Ｓｉ	
	⊙ 外装薄塗材Ｅ ・ 可とう形外装薄塗材Ｅ ・ 防水形外装薄塗材Ｅ ・ 外装薄塗材Ｓ	⊙ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状 ・ 砂壁状 ・ゆず肌状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状 ・さざ波状 ・ 凹凸状 ・ 砂壁状
⊙複層仕上塗材	・ 複層塗材ＣＥ ⊙ 可とう形複層塗材ＣＥ ・ 複層塗材Ｓｉ ・ 複層塗材Ｅ ・ 複層塗材ＲＥ ・ 複層塗材ＲＳ ・ 防水形複層塗材ＣＥ ・ 防水形複層塗材Ｅ ・ 防水形複層塗材ＲＥ ・ 防水形複層塗材ＲＳ	・ ゆず肌状 ・凸部処理 ・ 凹凸模様 耐候性 ※ 耐候形３種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタ リック 防水形の増塗材 ※ 行う
・ 可とう系改修塗材	・ 可とう系改修塗材Ｅ ・ 可とう系改修塗材ＲＥ ・ 可とう系改修塗材ＣＥ	・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状

防火材料の指定が必要な場合 [4.2.2](15.5.2)
※ 建築基準法に基づく認定を受けた材料とする。

5 建具改修工事

項目	特記事項
①改修工法の適用	[5.1.3]

建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具	※	・	※ 建具表による ・ 図示
・ 樹脂製建具	※	・	※ 建具表による ・ 図示
⊙ 鋼製建具 ⊙ 外部	※	⊙	※ 建具表による ・ 図示
⊙ 内部	※	⊙	※ 建具表による ・ 図示
・ 鋼製軽量建具	※	・	※ 建具表による ・ 図示
・ ｽﾃﾝﾚｽ製建具	※	・	※ 建具表による ・ 図示

②見本の製作等 ・ 特殊な建具の仮組（建具符号： ） [5.1.5]

③防犯建物部品 ・ 適用する（ ） [5.1.7]

④カーテンボックス ※再使用する ⊙新設する

⑤アルミニウム製建具 外部に面する建具 [5.2.2][表 5.2.1]

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
⊙ A種	S－4	※A－3		※ 70	※図示
・ B種	S－5	・	※W－4	・	
・ C種	S－6	A－4	W－5	100	

防音ドアセット ・ 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級（T-2）
耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追随性の等級（ ）
断熱ドアセット ・ 断熱サッシ（G ・ 適用する 断熱性の等級（ ）
表面処理 [5.2.4][表 5.2.2]
※ B－1 ・ B－2（※ ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ ﾌﾞﾗｯｸ ・ ｽﾃﾝｶﾗｰ） ・ D種
屋内建具
表面処理 ※ C－1種又はB－1種 [5.2.4][表 5.2.2]
・ C－2種又はB－2種（※ ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ ﾌﾞﾗｯｸ ・ ｽﾃﾝｶﾗｰ）
アクリル樹脂焼付塗装・フッ素樹脂焼付塗装は、2ｺｰﾄ2ﾍﾞｰｸ（プライマー塗なし）
膜厚 ４０ Ｕ以上とする。（鋼製の場合も同様とする）

⑥網戸 防虫網 [5.2.3]
網の種別 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・合成樹脂製・ステンレス製(SUS 316)
形 式 ※ 外部可動式 ・ 固定式
メッシュ寸法 ・１６ ※１８

⑦樹脂製建具 種別・耐風圧性・気密性・水密性・枠見込・遮音性・断熱性 [5.3.2][表 5.3.1～3]
※ 建具表（性能等級）特記による
１．一般共通事項 ２．建築基準法に定められた区分等
基準風速Ｖｏおよび地表面粗度区分による風圧力に対する性能を満足させること

⑧鋼製建具 簡易気密型ドアセット ・適用する ※建具表による [5.4.2][表 5.4.1]
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸 ・ 適用する [5.4.4]
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜又は
有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示
出入口（くつずりを除く）の鋼板
表面処理亜鉛めっき鋼板とする。
鋼板類の厚さは（標仕表１６．３．２に拘らず）以下とする。
枠類（くつずりを除く部分）：１．６㎜（鋼板）
枠類（くつずり） ：１．５㎜（ステンレス鋼板）
戸の中骨 ：１．６㎜（鋼板）
外部用上水切の板 ：１．６㎜（鋼板）
製品の寸法許容差
出入口の寸法許容差については（標仕表16.4.3に拘らず）ＪＩＳ Ａ４７０２による。
出入口枠、額縁、ぜん板の組立
隅を縦のばし銅つき溶接とする場合は（標仕表16.4.3に拘らず）面落ちしてもよい

⑨鋼製軽量建具 簡易気密型ドアセット ・適用する ※建具表による [5.5.2]
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜又は
有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示
戸の鋼板
・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板
・JIS G 3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）による。（カラー鋼板の場合）
塗装
戸の鋼板をJIS 3313による場合は（標仕16.5.4（e）に拘らず）建具製造所の仕様とする。
鋼板類の厚さは（標仕表16.4.1に拘らず）以下とする。
枠類（くつずり） ：１．５mm（ステンレス鋼板）
戸（表面板） ：０．６mm以上
戸（召合わせ、縦小口、包み板、押縁）：０．６mm以上
製品の寸法許容差
出入口の寸法許容差については（標仕表16.3.3に拘らず）JIS A 4702による。
枠の組立
隅は銅づき（標仕表16.5.2に拘らず面落ちも可）又は留めとしいずれも溶接とする
戸（縦小口包み及び召合わせを含む）の組立
建具製造所の仕様とする。

項目	特記事項
10ステンレス製建具	簡易気密扉の簡易気密型ドアセットの適用は特記による [5.6.2] 耐風圧性の適用は建具表による

施工箇所	鋼材の種類
屋外	※ SUS304又はSUS430JIL
屋内	※ SUS430 ・ SUS304又はSUS430JIL

表面仕上げ ※ ＨＬ仕上げ ・ 鏡面仕上げ [5.6.4]
曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ（補強有り） [5.6.5]
特定防火設備の戸 ・ 適用する [表 5.6.1]

11自動ドア開閉装置	※ 製造所標準製作規定寸法許容差による [5.8.2、3][表 5.8.1～3]	

開閉方法	センサの種類
※ スライディングドア ・スイングドア	・ マットスイッチ ・ 電子マットスイッチ
性能 ・ SSLD-1	※ 光線スイッチ
・ SSLD-2	・ 音波スイッチ
・ DSLD-1	・ 熱線スイッチ
・ DSLD-2	・ 光電スイッチ
・ SWD-1	・ 多機能便所スイッチ
・ SWD-2	・

・ 凍結防止措置（適用箇所は建具表による）
開閉機構 ※駆動力 ※電気式 ・電動油圧式 ・空気式

12自閉式上吊引戸装置	品質規格 ※ 改修標仕 表5.9.1 による [5.9.3][表 5.9.1] ・ 製造所標準仕様による	
13木製建具	かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ） (16.7.2) ふすまの上張り ※ 新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く） (表 16.7.3) ・ 鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量 (16.7.2) ※ 規制対象外 ・ 第三種 縁仕上 ・ 塗り縁 ・ 生地縁（素地） ・ 生地縁（ｳﾚﾀﾝｸﾘｱｰ塗装） (表 16.7.9)	
14建具用金物	マスターキー ※ 製作する ・ 製作しない 鍵箱 ・ 適用する [5.7.4] 建具用金物 [5.7.2、3][表 5.7.1、2] 錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける 吊金物 ⊙ 丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい） ・ ピボットヒンジ ・ フロアヒンジ	
15ガラス	※ 建具表による [5.13.2] ・ ガラスブロック積み（※ 図示） ガラスブロック 品質 JIS A 5212 によるもの [5.13.5]	

寸法(mm)	色 調	パターン	防火認定
	※ クリア ・ 熱線反射 ・ 乳白 ・ カラー（ ）		※ 無し ・ 有り

16ガラス留め材及び溝	ガラス留め材 [5.13.2][表 5.13.1]	

建具の種類	材 種
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・ パテ（※１種 ・２種）
ステンレス製	※ シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
熱線吸収ガラス及び網入ガラスの留め材は、全てシーリング（ＳＲ－１）とする。
アルミ製乙種防火戸のガラス留め材は、乙防シーリング（ＳＲ－１）不燃性
バックアップ材を使用することとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.13.3]
改修標仕 5.12.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は(社)日本建築学会 JASS 17ガラス工事「3.1 納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する

17ガラス用フィルム		

名 称	種 類	張り面	性能値
※ ガラス飛散防止フィルム	第２種	※ 内張り ・ 外張り	飛散防止率 Ｄ１
※ 遮熱フィルム		※ 内張り ・ 外張り	遮へい係数 Ｃ

品質 JIS A 5759 による
遮熱フィルム スリーエムジャパン ｎａｎｏ８０ｓ 程度

18重量シャッター	[5.10.2][表 5.10.1]	

シャッターの種類	
・ 一般重量シャッター	耐風圧強度（ ）N/m2
・ 外壁用防火シャッター	耐風圧強度（ ）N/m2
・ 屋内用防火シャッター	
・ 屋内用防煙シャッター	

開閉機能
※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式
危害防止機構 ※ 障害物感知装置（自動閉鎖型） [5.10.2]
・ シャッターの二段降下式
一般重量シャッターのシャッターケース ※ 設ける ・ 設けない [5.10.2]

19軽量シャッター	開閉形式 [5.11.2][表 5.11.1]	
	※ 手動式 ・ 上部電動式（手動併用）	
	スラット 材質 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 [5.11.3]	
	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯	
	形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.11.4]	
	ガイドレール等 [表 5.11.2]	
	※ 鋼板製 ・ ステンレス製 SUS 304（厚さ 1.5mm）	
	耐風圧強度（ ）N/m2	

20オーバードアヘッド	[5.12.2～4][表 5.12.1～2]	

セクション材	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ	※ バランス式	・ スタンダード形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ	・ チェーン式	・ ローヘッド形	※ ステンレス鋼板（SUS 304）
・ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・ 電動式	・ ハイリフト形	
		・ バーチカル形	

耐風圧性能（ ）Pa

21危害防止機構	※感知器からの信号を受けて自動的に閉鎖する防火又は防煙シャッターには、「防火シャッター閉鎖作動時の危害防止ガイドライン」［（社）日本シャッター工業会］における危害防止機構として、当該シャッター最下部の座金に設置する感知板が、人に接触すると同時に閉鎖作動を停止させ、その後、人がいなくなった時に再び降下を開始し、完全に閉鎖させるよう自動閉鎖装置へ信号を送る障害物感知装一降下中のくぐり抜け行動が想定されないものは除く。	

項目	特記事項
⑥内装改修工事 ①改修範囲	既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ⊙ 図示の範囲 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ⊙ 図示の範囲 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※ 既存のまま ⊙ 図示の範囲
②既存床の撤去並びに下地補修	ビニル床シート等の除去 ※ 仕上げ材のみ（接着剤とも） [6.2.2] ・ 下地モルタ ルとも（※ 図示の範囲 ・除去範囲全て） 合成樹脂塗り床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法 改修後の床の清掃範囲 ※ 改修箇所の室内
③既存壁の撤去並びに下地補修	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2][4.4.9] ※ 図示 ・ モルタ ル塗り（塗り厚 25mm を超える場合の補強 ※ 行う ・ 行わない）
④木下地等 G	木材の品質 [6.5.2][表 6.5.2～3] ※ 改修標仕 6.5.2 による ・ 市販品 間伐材等 ・使用する（使用箇所 ） 現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・B種 樹種 ※ 改修共仕表 6.5.4 による ・ 代用樹種を適用しない箇所（ ） 保存処理木材を適用する箇所（ ） [6.5.2][表 6.5.4] 間伐材等：間伐材、林地残材又は小径木であること。
⑤造作用集成材等 G	[6.5.2]

種 別	施工箇所	強度等級・材面の品質 性能・使用環境・樹種名・規格等	間伐材等の適用
・造作用単板積層材		※図示	
・造作用集成材		※図示	
・化粧ばり造作用集成材		※図示	
・化粧ばり構造用集成材		※図示	

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。

⑥接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 [6.5.2] ※ 木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、ﾚｿﾞﾙｼﾉｰﾙ樹脂又はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 ※ 壁紙、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、幅木に使用する接着剤 [6.8.2][6.14.2] 壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種	
⑦防腐・防蟻処理	※防腐処理 ※ 行う（※ 図示 ・ ） [6.5.5] 種類、品質（ ） ・防蟻処理 ・ 行う（※ 図示 ・ ） 種類、品質（ ）	

章	項目	特記事項
⑥ 内装改修工事	8床板張り用合板及びその他の合板 G	[6.5.2][表 6.5.10] 種別 / 施工箇所 / 厚さ(mm) / 接着程度 / 表板の樹種名又は品質・等級又は性能名 / 防虫処理 / その他の処理 / 間伐材等の適用 ・普通合板 / 壁下地 / 5.5 / ※1類・2類 / ※図示 / ・有・無 / ・難燃処理・防災処理 /
		・構造用合板 / 床下地 / 12.0 / ・特類 ※1類・2類 / ※図示 / ・有・無 / ・難燃処理・防災処理 /
		・天然木化粧合板 / ・1類・2類 / ※図示 / ・有・無 / ・難燃処理・防災処理 /
		・特殊加工化粧合板 / ・1類・2類 / ※図示 / ・有・無 / ・難燃処理・防災処理 /
		間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。
	9軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 [6.6.2][表 6.6.1] 屋外（・19形 ※25形） 屋内（※19形 ・25形） 既存の埋込インサート ・使用する ・使用しない [6.6.3～4] あと施工アンカーの材料 ※金属系アンカー ・接着系アンカー [6.6.4] あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ※行わない ※ 天井ふところ 1．5ｍ 以上の場合は吊りボルトの補強を行う ※ 天井ふところ 3．0ｍ を超える場合の補強 ※ 図示 耐震性を考慮した補強 ※ 図示 屋外軒天井及びピロティ一天井等における耐風圧性を考慮した補強 ※ 図示
	10軽量鉄骨壁下地	スタッドの高さが ５ｍ を超える場合 ※ 図示 [6.7.3][表 6.7.1]
	11床用塗料塗り	材料 ウレタン樹脂系塗料 （※標準色 ・ ） 仕上種別 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ 塗布量 プライマー塗りのうえ主剤３回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする
	12防塵用塗料塗り	材料 水性アクリル系塗料 （※標準色 ・ ） 仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り） 塗布量 主剤２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする
	13ビニル床シート張り G	[6.8.2] ・種類 / JIS の記号 / 色柄 / 厚さ(mm) ※特記仕様書3 参照 / / / / [6.8.3] 工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け（施工箇所： ）
	14ビニル床タイル張り G	[6.8.2] 種類 / JISの記号 / 厚さ(mm) / 備考 ※ コンポジションビニル床タイル（半硬質） / CT / ※3.0 / ・ コンポジションビニル床タイル（軟質） / CTS / ・ / ・ ホモジニアスビニル床タイル / HT / ・ /
	15帯電防止床タイル張り G	[6.8.2] 種類 / 厚さ(mm) / 性能 ・ ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ / ※2 / 体積抵抗値（JIS K 6911 による） ・ ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ / ※4.0又は4.5 / 1.0X10⁹Ω 以下、または、 ・ / ・ / 漏えい抵抗値（JIS A 1454 による） ・ / ・ / 1.0X10¹⁰Ω 未満
	16視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）	[6.8.2] ブロックパターンは JIS T 9251 による 色彩はグレー色を原則とする 屋内 ※塩化ビニル製 ・磁器又はせっ器質タイル（※ 300 ・ ） ・レジンコンクリート製 屋外 ※レジンコンクリート製 ・磁器又はせっ器質タイル（※ 300・ ）
	17ソフト幅木	高さ(mm) ・60 ・75 ・100 [6.8.2]
	18合成樹脂塗床（ランニング場）（卓球場）（ギャラリー）	[6.10.3][表 6.10.3～8] 種別 / 仕上げの種類 ・弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材 / ※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ ・エポキシ樹脂系塗床材 / ※ 薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※ 平滑 ・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※ 平滑 ・防滑） ・防滑仕上げ ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種 参考品番：長谷川体育施設 レヂンエースＦ 厚7.0mm ポリウレタン系 同等品以上 参考品番：アトミクス フロアートップU-90 厚1.5mm 弾性ウレタン 同等品以上
	19フローリング張り	[6.11.2～7][表 6.11.1～5] 種別 / 材種 / 工法 / 仕上塗装等 / 間伐材等の適用 ※特記仕様書参照 / / / / ・ / / / / ・ ・ / ・ / ・ / ・ ・ / ・ / ・ / ・ ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種 間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。
	20畳敷き	[6.12.2、3][表 6.12.1] 下地の種類 / 畳の種別 改修標仕 表 6.5.9 による床組 / ※ B種 ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地（ノンフロン G） / ※ C種 畳表及び畳床は VOC 含有量が少ないものとする
	21ポリスチレンフォーム床下地材	ノンフロンのもの G 畳下地 厚さ(mm) ※40 ・65 ・80 （不燃） フローリング類 厚さ(mm) ※80 ・95 （不燃）

章	項目	特記事項
	22カーペット敷き	・織じゅうたん [6.9.2～3][表6.9.1～2] 種別 / パイル形状 / 色柄等 / 備考 ・A種・ カットパイル / ※ 無地 / ・B種・ ループパイル / ・ 柄物（標準品） / ・C種・ ｶｯﾄ，ﾙｰﾌﾟ パイル併用 / ・ / 耐電性 ※ 人体帯電圧３kV以下 ・タフテッドカーペット [6.9.2～3][表 6.9.2] パイル形状 / パイル長(mm) / 工法 / 備考 ・カットパイル / ※ 5～7 ・ / ※ 全面接着工法 / ・ループパイル / ※ 4～6 ・ / ・ グリッパー工法 / ・ｶｯﾄ，ﾙｰﾌﾟ 併用 ・ / 耐電性 ※ 人体帯電圧３kV以下 ・タイルカーペット [6.9.2～3][表 6.9.2] パイル形状 / 種類 / 種類 / 総厚さ(mm) / 備考 ※ ループパイル / ※ 第一種・第二種 / ※ 500×500 / ※ 6.5 ・ / ・ カットパイル / / / / / ・ｶｯﾄ・ﾙｰﾌﾟ 併用 / / / / / 耐電性 ※人体帯電圧 3kV 以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）
	23せっこうボードその他のボード張り	[6.13.2][表 6.13.1] 種類 / 厚さ（mm）、規格等 ・硬質木毛セメント板 G / ・15 ・20 ・25 ・普通木毛セメント板 G / ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 G / ・15 ・20 ・25 ・普通木片セメント板 G / ・30 ・ ・けい酸カルシウム板 / ※0.8FK タイプ２（無石綿）（・6・8・ ） / ・化粧ボード（・6 ・ ・ ） ・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 / ※ フラットタイプ （※ 9(不燃) ・12 ・ ） ・凹凸タイプ（※ 12（不燃）・15 ・19 ・ ） ・せっこうボード / ※12.5(不燃) ・9.5(不燃・準不燃) ・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ / 9.5(不燃) 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様） ・耐水せっこうﾎﾞｰﾄﾞ / 12.5（不燃） ・硬質せっこうボード / ・12.5（不燃） 15.0（不燃） ・せっこうラスボード / 9.5 ・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ / 9.5（準不燃）（不燃） ・普通合板（難燃処理） G / ・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度） ・抗菌メラミン不燃化粧板 / JIS K 6903 による 厚さ 1.2 ・3.0 ・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨ ﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ G / ・3 ・7 ・9 ・12 ・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ / ・無研磨板 VN ・研磨板 VS / ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード（素地） G / ・素地 ・RN-HB ・RS-HB / ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ G / ・T-IB ・A-IB ・S-IB / ・9 ・12 ・15 ・18 ・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号 / ※ 25 ・ ・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ 32K / ※ 25 ・ 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ・適用する （・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド） [6.14.2]
	24壁紙張り	施工箇所 / 壁紙の種類（紙 / 繊維織物 / プラビニル / その他 / 無機質） / 防火性能 / 備考 図示 / ・ / ・ / ○ / ・ / ・ / ・不燃・準不燃・難燃 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・不燃・準不燃・難燃 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・不燃・準不燃・難燃 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・不燃・準不燃・難燃 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・不燃・準不燃・難燃 / 素地ごしらえ [6.14.3][表 7.2.4][表 7.2.7] モルタル、プラスター面 ※ RB 種・RA 種（施工箇所： ） せっこうボード面 ※ RB 種・RA 種（施工箇所： ） 壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種
	25モルタル塗材料	吸水調整材 [6.15.3] 全固形分（%） / 吸水性（g） / 接着強度(N/mm2) / 界面破断率（%） 表示値±1.0以内 / 30分間で1g以下 / 1.0以上 / 50以下 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 防水剤（防水モルタル塗りの混入剤） 防水剤の種類 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤（JIS A 1404 による試験） 混合割合 / 凝結時間 / 曲げ及び圧縮強度比 / 吸水比 / 透水比 セメント重量の 5%以下 / JIS R 5201の試験8にて 始発 1時間以上 終結 10時間以内 / 70%以上 / 95%以下 / 80%以下 2９４．０ KPa/h 膨張性のひび割れおよびそりがないこと。JIS R 5201 の試験 9 既製目地材 ※ 適用しない ・適用する

章	項目	特記事項
	26陶磁器質タイル張り	タイルの種類 [6.16.3] 用途区分 / 形状寸法 / 吸水率区分 / 釉薬 / 役物 / 色 / 再生材 / 耐凍害性 / すべり抵抗性 / 備考 施工箇所 / (mm) / Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類 / 施釉 無釉 / 有 無 / 標準 特注 / 適用 G / 有 無 / コンコース 100角 / ○ ・ ・ / ・ ○ / ○ ・ / ・ ○ / ・ / ・ / エントランス 100角 / ○ ・ ・ / ・ ○ / ○ ・ / ・ ○ / ・ / ・ / ・ ・ ・ / ・ ・ / ・ ・ / ・ ・ / ・ / ・ / ・ ・ ・ / ・ ・ / ・ ・ / ・ ・ / ・ / ・ / 役物：標準的な曲がりの役物は一体成形とする タイルの見本焼き ※ 行わない ・行う 内装タイル ※ 壁タイル接着剤張り ・積上げ張り
	27断熱材	(19.9.2～3) 種類 / 施工箇所 / 厚さ(mm) / 品質等 ・押出法ポリスチレンフォーム保温材 / ※ 2種b / ※ 一般部 ・ / ※ 25 ・ / ノンフロンのもの G ・ / ※ 3種b（スキン層付） / ・接地部分 ・ / ※ 25 ・ / ノンフロンのもの G ・フェノールフォーム保温材 / ※ A種 / ・ / ・ / ノンフロンのもの G ・現場発泡断熱材 / ※ A種1 / ※ 断熱材補修部分 / ・一般部 ・ / — / ・ 25 ・ / ノンフロンのもの G ※ 難燃性 ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種
	28浴室天井材	市販品 材質 / 表面仕上げ / 性能 / 幅(mm) / 備考 ※ アルミニウム製 / ※ 焼付け塗装品 ・アルマイト処理品 / 準不燃品 / ※ 200 ・ 100 / 回り縁は縞付きとし、製造所の標準品とする。
	29フリーアクセスフロア	(20.2.2) 施工箇所 / 構法 / 仕上高(mm) / 適用地震時水平力 / 耐荷重性能 / 表面仕上げ材 / 備考 / ・ﾊﾞﾈﾙ構法 / / ・1.0G ・0.6G / ・3,000N ・5,000N / ・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ / / ・溝構法 / / / / / / ・ﾊﾞﾈﾙ構法 / / ・1.0G ・0.6G / ・3,000N ・5,000N / ・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ / / ・溝構法 / / / / / / ・ﾊﾞﾈﾙ構法 / / ・1.0G ・0.6G / ・3,000N ・5,000N / ・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ / / ・溝構法 / / / / / 耐震性能 5000N、高さ 300 以上については、平成元年建設省告示第1322号「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びボーダー ※ 製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※ 製造所の標準仕様 コンセント本体は別途設備工事）コンセントの箇所数は図示 配線用取り出しパネル 配線取り出し開口：パネル１枚につき40mmＸ80mm程度の開口１ヶ所以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20～30 パーセント 空調用吹き出しパネル ※ 無し ・有り（※ 固定式 ・可変式 ：施工箇所は図示）
	30可動間仕切	(20.2.3) 構造形式 / パネル部の総厚さ(mm) / 表面材種厚さ(mm) / 表面仕上げ / 遮音性能 防火性能 ・スタッド式 / ・ / ※ 鋼板（※ 0.6・0.8） / ※ メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・ / ・あり ・なし / ・あり ・なし ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 / / / / ( ) / ・なし ・パネル式 / / / / ・なし /
	31移動間仕切	(20.2.4) 遮音性能 / 厚さ(mm) / 表面材 / 表面仕上げ / 操作方法 ・一般タイプ / ※ 鋼板 / ・焼付け塗装 ・壁紙張り / ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 ・遮音タイプ（36db以上） / ※ 鋼板 / ・焼付け塗装 ・壁紙張り / ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 表面仕上げの壁紙張りの品質は 22 壁紙張りによる 遮音性能は JIS A 6512 の遮音試験に準拠する
	32トイレブース	表面仕上げ材 ※ メラミン樹脂系化粧板（標準色 アルミ製ｺｰﾅｰｴｯｼﾞ付き） (20.2.5) ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ※ 幅木型 ・足金物型
	33階段滑止め	材種 ステンレス SUS 304 (20.2.6) 形状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※ 有り（・ステンレス製 ※ ビニル製）・無し 幅(mm) 約 35 取付け工法 ※ 接着工法 ・埋込み工法
	34階段手すり	種別 / 施工箇所 ※製手摺 SUS304 HL仕上（ 径 約 34.0mm） / ・ビニル製ハンドレール（幅 約 50mm） /
	35黒板及びホワイトボード	(20.2.8) 種類 / 寸法(mm) / 色彩 / 備考 ・黒板 / ※焼付け / ※ 緑・黒 / ※ 平面 ・凹面 ・ｽﾘｰﾝ付引分 / / ※ 緑・黒 / ・ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ / ※ほうろう / ※ 白 / ※ 平面 ・凹面 ・ｽﾘｰﾝ付引分 / / /
	36表示	衝突防止表示 ※ 図示（市販品 ※ステンレス製 径約 40mm ・ ） (20.2.10) （※ 両面 ・片面） ・無し 表示標識 案内用図記号については JIS Z 8210 による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 製造所 監督職員の承諾する製造所

章	項目	特記事項
	37ブラインド	・既存再使用する（養生方法： ） [2.3.1][5.1.6] ・新設する (20.2.12) 形式 / 種類 / スラットの材質 / スラットの幅(mm) ※ 横型 / ※ ギア式 ・コード式 ・操作棒式 / ※ アルミニウム合金製 ・ / ※ 25 ・ 縦型 / ・1本操作コード ※2本操作コード / ・アルミスラット ・クロススラット / ・80 ・100
	38ロールスクリーン	防炎性能 ※ 有り 製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13) 施工箇所 / 装置 電動 / 装置 手引 / 性能（防炎性能） / 備考
	39カーテン暗幕	・既存再使用する（養生方法： ） [2.3.1][5.1.6] ・新設する (20.2.14) 施工箇所 / 形式 片引 / 形式 引分 / 装置 電動 / 装置 紐引 / 装置 手引 / ひだの種類 / 性能 / 備考 体育館 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ /
	40カーテンレール	・既存再使用する [5.1.6] ・新設する (20.2.14) 材種 ※ アルミニウム製 ・ステンレス製
	41ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	・既存再使用する [5.1.6] ○ ・新設する ・市販品（アルミニウム製 押出し型 材） 溝幅×深さ(mm) ・90×150 ・120×80 ※120×150 ・150×80 ・ 色彩 ※B－1 ・B－2（※ ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー） ・図示
	42天井点検口	材質 アルミニウム製（※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ）
	43床点検口	材質 アルミ製（・ステンレス受け枠 ※ アルミ製 ・ ステンレス製）
	44鋼製書架及び物品棚	種類 / 規格等 / JIS による種類 ・鋼製書架 / JIS S 1039 の規格による / ・1種 ・2種 ・3種 ・鋼製物品棚 / / ・4種 ・5種 ・6種
	45くつふきマット	市販品 材質 ・塩化ビニル製（コイル状 ｽﾃﾝﾚｽ製受枠） ・ビニル製（ｽﾃﾝﾚｽ製受枠） ・硬質アルミニウム製（受枠とも） ・ｽﾃﾝﾚｽ製（受枠とも）
	46流し台ユニット	種類 / 寸法（L＝ mm） / 適用内容 / 規格・品質等 ・流し台 / ※ 1200・1500・1800 / トラップ付き / ※ 優良住宅部品（ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝⅠ型） ・コンロ台 / ※ 600 ・700 / ﾊﾞｯｶﾞﾝ ※有り ・つり戸棚 / ※ 1200 ・900 ・600 / ・水切り棚 / ※ 1200 ・900 / ｽﾃﾝﾚｽ製 / ※1段式 ※ 市販品
	47屋内掲示板	枠の材質 ※ ステンレス製 表面の材質 ※ ゴムタイル 厚9.0
	48洗面カウンター	材種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石 奥行き(mm) ・約 450 ・約 600
	49収納家具	材質 (12.2.2)(19.7.2) 形状・寸法 ※ 図示 合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・第三種
	50防煙垂れ壁	・固定式 材質 / 厚さ(mm) / 高さ(mm) / 備考 ※ 網入り磨板ガラス ・ 網入り磨板ガラス ・ スタッド65型+P. Bt=12.5ビニルクロス貼り（両面） / ※ 6.8 ・ / ※ 500 ・ / アルミ製枠付き ・可動式 種類 / 材質 / 高さ(mm) / 備考 ・垂直降下式（巻取り型） / ※ 不燃布（不燃認定品） / ※ 500 ・800 ・ / ガイドレール ※ 固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型） ・回転降下式 / 鋼板製又はアルミ製 / ※ 500 ・800 ・ / 表面仕上げ ※ 天井材張り 降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

⑦ 塗装改修工事

①材料

屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。
ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

②塗装業者

※日本塗装工業会の会員　・監督員の承諾する塗装業者

③下地調整

[7.2.2～7][表 7.2.1～7]

下地の種類	下地調整の種別	備　考
木部	・RA種 ※ RB種	
鉄鋼面	・RA種 ※ RB種	
亜鉛めっき面	・RA種 ※ RB種	
亜鉛めっき面（鋼製建具）	※ RB種 ・ RC種	
モルタル、プラスター面	・RA種 ※ RB種	
ｺﾝｸﾘｰﾄ、ＡＬＣパネル面	・RA種 ※ RB種	(2-UE)、(2-ASE) 及び (2-FUE) は除く

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修　[表 7.2.4～6]
※ 行わない ・ 行う（補修範囲及び補修方法は図示）

４２液型ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝｴﾅﾒﾙ塗り及び常温乾燥形ﾌｯ素樹脂ｴﾅﾒﾙ系

下　地　の　種　類	新規の塗り種別	塗り替えの種別
鉄面	※Ａ種 ・Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
亜鉛めっき面	※Ａ種 ・Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
ｺﾝｸﾘｰﾄ及び押出成型セメント面	※Ａ種 ・Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種

⑤塗装塗り

[7.4.2～7.15.2][表7.4.1～7.15.1]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
・合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り (SOP)	木部（外部） [7.4.3]	※Ｂ種 [7.4.3]	※Ａ種
	木部（内部） [7.4.3]	※Ｂ種 [7.4.3]	※Ｂ種
	鉄鋼面 [7.4.4]	※Ｂ種 [7.4.4]	・Ａ種 ・Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面 [7.4.5]	※Ｂ種 [7.4.5]	※Ｂ種
	鋼製建具 [7.4.5]	※Ａ種 [7.4.5]	※Ｂ種
・フタル酸樹脂エナメル塗 (FE)	屋内木部 [7.6.2]		
	鉄鋼面 [7.6.3]		
	亜鉛めっき鋼面 [7.6.3]		
・ｱｸﾘﾙ樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)	屋内のｺﾝｸﾘｰﾄ面・モルタル面 [7.7.2]	※Ｂ種	※Ｂ種 (18.6.2)
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面 上塗り [7.8.2] ・1級（ふっ素樹脂塗料） ・2級（ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料） ・3級（ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂塗料）	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.8.2] ・Ｃ種	※Ａ種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り [7.8.3] ・1級（ふっ素樹脂塗料） ・2級（ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料） ・3級（ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂塗料）	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.8.3] ・Ｃ種	※Ａ種
	コンクリート面 [7.8.4]	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (18.7.4)
	押出成形セメント板面 [7.8.4]	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (18.7.4)
・つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G)	屋内木部 [7.9.3]	※Ｂ種 [7.9.3]	※Ａ種
	屋内鉄鋼面 [7.9.4]	※Ｂ種 [7.9.4]	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内亜鉛めっき鋼面 [7.9.5]	※Ｂ種 [7.9.5]	・Ａ種 ・Ｂ種
	コンクリート面 [7.9.2]	※Ｂ種 [7.9.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面 [7.9.2]	※Ｂ種 [7.9.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	プラスター面 [7.9.2]	※Ｂ種 [7.9.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面 [7.9.2]	※Ｂ種 [7.9.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP)	塗装面 [7.10.2]	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	コンクリート面 [7.10.2]	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面 [7.10.2]	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	プラスター面 [7.10.2]	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面 [7.10.2]	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ模様塗料塗 (EP-T)	屋内ｺﾝｸﾘｰﾄ面・ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面・石膏ﾎﾞｰﾄﾞ面 ・木部など [7.11.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 [7.11.2]	・Ａ種 ・Ｂ種
・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	木部 [7.12.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.12.2]	・Ａ種 ※Ｂ種
・クリアラッカー塗り (CL)	木部 [7.5.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.5.2]	・Ａ種 ※Ｂ種
・オイルステイン塗り (OS)	木部 [7.13.2]	[7.13.2]	
・木材保護塗料塗り (WP)	木部 [7.14.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.14.2]	・Ａ種 ※Ｂ種

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別　※１種　[7.4.2]

⑧ 環境配慮改修工事

①アスベスト含有分析調査

分析によるアスベスト含有建材の調査　[9.1.1]
⊙ 行う（下表による） ただしｱｽﾍﾞｽﾄ含有材とみなし処理する場合は不要

材　料　名	調査方法（１材料あたりの試料数：3サンプル）
ビニルクロス	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析

採取箇所　※ 図示
分析対象
※ アスベスト ６ 種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト）
分析方法
※ JIS A 1481 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による
分析結果については、監督職員に提出すること。

２ｱｽﾍﾞｽﾄ粉じん濃度測定

アスベスト粉じん濃度測定　[9.1.1]
・ 行う（測定名称及び測定点は下表による）
測定箇所　※ 図示

測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	備　考
・ 測定 1	処理作業前	処理作業室内	各　点	－
・ 測定 2		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	－
・ 測定 3	処理作業中	処理作業室内	各　点	－
・ 測定 4		ｾｷｭﾘﾃｨｰﾌﾞｰｽ入口	各　点	空気の流れを確認
・ 測定 5		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各　点	除じん装置の性能確認
・ 測定 6		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	－
・ 測定 7	処理作業後（ｼｰﾄ養生中）	処理作業室内	各　点	－
・ 測定 8		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	－
・ 測定 9	処理作業後ｼｰﾄ撤去後1週間以降	処理作業室内	各　点	－
・ 測定 10		調査対象室外部の付近	計　点	－

アスベスト粉じん濃度測定方法
アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定 3 測定 1	2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定 5
計数機器	位相差顕微鏡		
ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径	25 mm		47 mm
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min
試料の透明化	アセトンシートリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野		
計数アスベスト	直径 3μm 未満、長さ 5μm 以上、長さと直径比 3:1 以上		
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l

報告書の作成（記録する項目）
ア、測定結果
イ、測定時間
ウ、測定位置（測定高さとともに図面上に記載する。）
エ、サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
オ、マウンティング方法
カ、顕微鏡視野面積、計数視野数
キ、測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

３ｱｽﾍﾞｽﾄ含有吹付材の除去（レベル１）

アスベスト含有吹付け材の除去　[9.1.3]
・ 行う　除去方法は 9.1.3 による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。
除去物及び汚染物質等
処理方法
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化

４ｱｽﾍﾞｽﾄ含有保温材等の除去（レベル 2）

アスベスト含有保温材の除去　[9.1.4]
・ 行う
作業上の隔離
・ 行う
・ 行わない

５ｱｽﾍﾞｽﾄ含有成形板の除去（レベル 3）

アスベスト含有成形板の除去　[9.1.5]
⊙ 行う（ビニルクロス）

６外断熱改修工事

断熱材の種類　[9.3.2]

材　料　名	厚さ(mm)
・ビーズ法ポリスチレンフォーム （ノンフロン_G）	
・押出法ポリスチレンフォームＡ種 （ノンフロン_G）	
・硬質ウレタンフォーム（ノンフロン_G） ・フェノールフォーム	
・ロックウール ・グラスウール	

外装材の種類　[9.3.2]

・	防火性能

既存外壁の仕上材の撤去　・有り　・なし　[9.3.3]
下地面の清掃及び下地調整　※断熱材製造所の指定する仕様
・
通気層　・有り（　mm ）　・なし　[9.3.4]
試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
特記無き事項は、製造所の仕様による。

７ガラス改修工事

複層ガラスの厚さ　建具表による　[9.4.2]
断熱性・日射遮へい性による区分　※ U3-1　・ U3-2

８屋上緑化改修工事 G

植栽基盤及び材料　[9.6.1]
※屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示
見切材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示

９透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装改修工事 G

路盤材料　[9.7.4][表9.7.5]
※再生クラッシャラン（ＲＣ－４０） G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０） G
・クラッシャラン（Ｃ－４０）
透水性の高いものを使用する
路盤の締固め度試験　※行う　・行わない
遮断層及び凍上抑制層の材料　[9.7.3]
・遮断層　※川砂、海砂又良質な山砂　厚さは図示
・凍上抑制層　※再生クラッシャラン G ・クラッシャラン　切り込み砂利・砂　厚さは図示
盛り土に用いる材料　[9.7.3][表9.7.1]
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G
路床安定処理　[9.7.3][表9.7.3]
※添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種 G
・高炉セメントＢ種 G
・生石灰（　）　・消石灰（　）
添加量　kg/m3　（目標CBR　※５以上　・　）
路床土の支持力比試験　※行う（※乱した土　・乱さない土）
路床締固めの度の試験　※行う
砂の粒度試験　※行う
透水性アスファルト混合物　[9.7.6][表9.7.7]
車道部　※ポリマー改質アスファルトⅠ型
歩道部　※ストレートアスファルト
透水性アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　[9.7.9]

10ＰＣＢ含有シーリング材処分

・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数　計　箇所
採取箇所　※図示
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析個数　計　箇所
・除去処理工事
除去範囲　※図示
撤去方法　・「標準施工要領書（日本ｼｰﾘﾝｸﾞ工事業共同組合連合会／日本ｼｰﾘﾝｸﾞ材工業会）による

11アスベスト成形板の処理

処理を行うアスベスト成形板の仕様

種　類	厚さ（mm）
⊙ ビニルクロス	

処理を行う範囲
・すべての室　⊙図示（仕上表による）　・（　）
施工調査
アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は、図面により記録し監督員に提出する。
（１）アスベスト成形板使用部位の確認
記載上の成形板及びその使用範囲以外についても監督員と協議の上確認を行う。
（２）アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認
（３）アスベスト成形板使用数量の確認
（４）施工範囲等の確認

12外構舗装

瓦骨材利用保水性舗装：参考品番：翔飛工業

９ 改修工事等

１既存部分の処理

適用範囲　[8.19.3] [8.20.3] [8.21.3]
※既存コンクリートとの打継ぎ面
※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面

既存コンクリートの目荒らしの程度
・既存柱、梁面　打継ぎ面の15～30%程度
・既存壁　打継ぎ面の10～15%程度

既存コンクリートの目荒らしの範囲
・平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹面を、全体にわたってつける。

２現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事

コンクリートの打込み工法の種類　[8.19.8][8.21.5]
・流込み工法　・圧入工法

３柱補強

・溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法　[8.21.5]
・鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法　[8.21.6]
・連続繊維補強工法　[8.21.7]
・SRF工法

４連続繊維シート巻き

材料・形状　[8.2.12]
採用した工法の規定を満足するもの
材質
引張り強度（含浸硬化後）
・2500N/mm2 以上
・3000N/mm2 以上
ヤング係数（含浸硬化後）
・2.35×10 5N/mm2　程度
・2.00×10 5 N/mm2　以上
工法　[8.21.7]
※（財）日本建築防災協会の評価を受けた工法

下地調整　[8.21.7]
ひび割れ部の改修工法の種類
・樹脂注入工法　・Uカットシール材充填工法　・シール工法
柱の隅角部の面取り　[8.21.7]
※工法の評価内容による

５スリットの施工

スリット部の配管等の探査　[8.22.2]
※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う
・はつり出し

<あと施工ｱﾝｶｰ>

１あと施工ｱﾝｶｰの材料

あと施工アンカーの材料　[8.2.4] [表8.2.1]
・金属系アンカー（耐震補強用）
※接着系アンカー
接着剤の品質　※有機系　・無機系
アンカー筋の種類　・改修標仕8.2.1の異形棒鋼　・全ねじボルト

２あと施工ｱﾝｶｰの

穿孔前の埋込み配管等の探査　[8.11.2]
範囲　・構造図（　）による
・
方法　※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う
・はつり出しによる
穿孔機械
※ハンマードリル（メタルセンサーリールを使用する）

既存コンクリートの不良箇所の確認
※アンカー施工部位の既存コンクリートは目荒らし後、目視及び打診により状況、を確認ししゃんか等不良箇所を発見した場合には、監督職員と協議すること。

３あと施工ｱﾝｶｰの施工確認試験

試験方法　[8.11.5]
・引張試験

確認強度

シーリング工事特記仕様書　　項目の　印を付けたものを適用する

⊙シーリング材

※ 工事に先立ち施工計画書を作成し係員の承諾を受ける。
・ 外装に用いるシーリング材の選定は下記による。（ＳＳＧ構法用シーリング材を除く）

シーリング材の使用区分

被着体の組合せ ＼ シーリング材の種類 ＼ 成分系			2成分系				1成分系	
			2成分系				1成分系	
			シリコーン系	変成シリコーン系	ポリサルファイド系	ポリウレタン系	シリコーン系	アクリル系
注意事項 No.			SR−2	MS−2	PS−2	PU−2	SR−1	AC−1
金属板、建具等	方立目地	1, 2, 4, 13	◎	○				
・ アルミ	上記以外の目地			◎				
○ アルマイト	コンクリート	2, 3		◎	○	○		
電解着色	ガラス	2, 6, 7	○	×	△		◎	
塗装	花こう岩	4, 5	×	◎	○		×	
・ ステンレス	タイル	4	×	○	◎		×	
・ 鉄（亜鉛メッキ）	ＡＬＣ 仕上げなし	2, 3		◎				
	ＡＬＣ 仕上げあり					◎		
	押出成形セメント板	2, 3		◎				
	セメント系ボード	4, 3, 10			◎		×	
	ポリカーボネイト、アクリル樹脂	8					○	
ホーロー鋼板	ホーロー鋼板	11	△	◎	○			
銅、ブロンズ	銅、ブロンズ	11, 12	△	△				
塩ビ、フッ素鋼板	塩ビ、フッ素鋼板	11	△	△				
耐候性鋼	耐候性鋼	12	△	△				
ガラス	ガラス	6, 7	○				◎	
石	花こう岩	4, 5	×	×	◎		×	
	大理石		×	×	△		×	
ネオパリエ	ネオパリエ		×	×	◎			
タイル	タイル	4	×	○	◎		×	
	花こう岩	4, 5	×	○	◎			
コンクリート系	コンクリート、ＰＣ板	2, 3		◎	○	△		
⊙ コンクリート	打継目地 仕上げなし	3	×		◎			
・ モルタル	打継目地 仕上げあり		×			◎		
・ ＰＣ	花こう岩	4, 5	×	○	◎		×	
・ スパンクリート	タイル	4	×	○	◎		×	
・ ＧＲＣ	ＡＬＣ 仕上げなし	2, 3		◎				
	ＡＬＣ 仕上げあり					◎		
	押出成形セメント板	2, 3		◎				
	セメント系ボード	4, 3, 10	×	○	◎		×	
ＡＬＣ	ＡＬＣ 増張いスライド工法 仕上げなし	2, 3		◎				
	ＡＬＣ 増張いスライド工法 仕上げあり					◎		
	ＡＬＣ 増張い挿入筋 仕上げあり							◎
押出成形セメント板	押出成形セメント板 仕上げなし	2, 3		◎				
	押出成形セメント板 仕上げあり					◎		
セメント系ボード	セメント系ボード	4, 3, 10	×	○	○	◎		
合成ゴム	合成ゴム	9	△	△	△			
アルミニウム製建具等の工場シール					◎			
遮音壁取合部								◎

凡例
◎＝標準的仕様
○＝グレードに応じ使用
△＝条件により使用可
×＝使用不可

1．図示なきシール寸法は　Ｗ１５×Ｄ１０　とする。
2．特記なきシール寸法は
　ＳＲ−２　−　１５×１０
　ＭＳ−２　−　１８×１０
　ＰＳ−２　−　２０×１２
　ＰＵ−２　−　２０×１２
　とする。

注意事項

1．熱伸縮の大きい目地には、ＳＲ−２，ＭＳ−２を使用する。
2．層間変位を受ける目地には、低モデュラスタイプを使用する。
3．シール表面に塗装する場合は、ポリウレタン・変成シリコーン系とし、いずれもシーリング材と塗料の相性を確認する。
4．ＳＲ−２，ＳＲ−１は、石・タイル・セメント系ボードや汚れの目立ちやすい淡色系の外装材を汚染するので使用しない。
5．ＭＳ−２は大理石を汚染するので使用しない。
6．ガラス廻りには、ＳＲ−１，ＳＲ−２を使用する。
7．熱線反射ガラスには、専用のプライマーを使用する。
8．ポリカーボネイト・アクリル樹脂にはＳＲ−１アルコール型を用い、プライマーは使用しない。
9．合成ゴムには、シールの汚染、接着、硬化不良を起こすものがある。現物により接着などを確認する。
10．セメント系ボードは、吸水しやすく、乾燥しにくいので、プライマーを２回塗布する。
11．ブロンズの硫化いぶし、ホーロー・塩ビ・フッ素鋼板等は現物により接着性を確認する。
12．銅及び耐候性鋼は、シールに頼らない納まりとする。
13．金属・コンクリートは酸に侵されるので、ＳＲ−１酢酸型は使用しない。
14．瀝青質鋼板には、どのシールも接着しないので、シール材を用いない納まりとする。
15．ＰＳ−１（ポリサルファイド一成分形）は石を汚染するので使用しない。

⊙補助材料

※ バックアップ材　合成樹脂又は合成ゴム製でシーリング材と接着しないもとし使用箇所に適した形状。
※ ボンドブレーカー　紙、布、プラスチックフィルムなどの粘着テープでシーリング材と接着しないもの。
※ プライマー　プライマーは主材製造所の製品とし、被着体（塗装してある場合は塗料）に適したものとする。
※ ガラスの留め材　（シーリングは使用区分表による）

建具の種類	材質
アルミニウム製	・ シーリング材
	※ ガスケット
	・ パテ（・ １種 ※ ２種）
鋼製	※ シーリング材
ステンレス製	・ パテ（※１種 ・ ２種）
木製	※ パテ

⊙保証年限

保証書　○ 提出する　・提出しない
外装シール材は竣工日より下表年限以内に材料、施工及び目地形状、寸法、被着体の不備によりシール材の破断、はく離が生じた場合は無償補修とする
但し、火災、飛来物、層間変位１／３００以上の震害および人為的なものを除く

材料	ＳＲ−２	ＭＳ−２ ＳＲ−１	ＰＳ−２	ＰＵ−２	ジッパーガスケット強度保証共	グレイジングチャンネル・ビート
年限	７年	５年	３年	３年	１０年	ＣＲ７年・ＰＶＣ２年

⊙施工業者

○ 材料製造業者の指定するシーリング施工者
○ 「日本シーリング工業会」の認定する「シーリング管理士」を有する関西シーリング工事業協同組合員
○ シーリング技能士（１）級（１）人以上を当現場に配置すること

⊙接着試験

○ シーリング用材料の接着性試験　試験は原則として公的試験所にて行う
○ 簡易接着性試験・　引張接着性試験

⊙年限内調査等

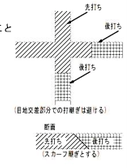
保証期限内に漏水、破断等が認められる場合は施工者の費用により調査を行う。建物引渡し時にシールに対する定期検査等の注意事項および、発注者の定期点検を代行する場合の時期、方法、費用も発注者に提出する。

⊙打継ぎ

異種シーリング材の打継ぎは原則として行わない。やむを得ない場合は下記による。

先打ち ＼ 後打ち	シリコーン系 SR−2	シリコーン系 SR−1（HM）	変成シリコーン系	ポリサルファイド系	アクリルウレタン系	ポリウレタン系	アクリル系
シリコーン系	○	○	×	×	×	×	×
シリコーン系ＳＲ−１（ＨＭ）	＊	○	×	×	×	×	×
変成シリコーン系	△	＊	△	×	×	×	×
ポリサルファイド系	○	＊	○	○	○	○	○
アクリルウレタン系	○	＊	○	○	○	○	×
ポリウレタン系	○	＊	○	○	○	○	×
アクリル系	×	＊	○	○	○	○	○

注１）○：打ち継ぐことができる
　△：カットして新しい面を出し専用プライマーを使用すれば、打ち継ぐことができる
　×：打ち継ぐことができない
　＊：シーリング材製造業者に確認が必要である
２）打継表は以下の条件を前提としている
　１．先打ちシーリング材は十分に硬化していること
　２．打継面は溶剤洗浄を行うこと、またはカットして新しい面を出すこと
　３．後打ちシーリング材のプライマーを打継面に塗布すること
　４．打継ぎ（スカーフ継ぎ）の例を右に示す
３）打継表の適応にあたっては次のような留意が必要である
　１．この打継表は、目地設計・施工計画・施工管理などに参考とする目安であり、実際の施工にあたっては、取り合うシーリング材製造業者の技術資料や指示に基づいて実施する必要がある
　２．工事施工の打継ぎは、工事施工後の放置時間や養生の条件によって接着性が大幅に異なる場合があるので、施工直前に再びチェックを行う必要がある



⊙シールの巾

温度ムーブメントδtの求め方
部材の熱膨張および収縮に起因する温度ムーブメントは、以下の算定式により求める。
１）算定式
① バットジョイント
バットジョイントのムーブメントは引張り・圧縮方向であり、（４．１）式で算定する。
$\delta_t = \alpha \cdot l \cdot \Delta T\ (1-K_t)$ ・・・・・・・・・・・・・・・（４．１）
ここに　δ_t ：温度ムーブメント（mm）
　α ：部材の線膨張係数（　／℃）
　l ：部材の設計長さ（mm）
　ΔT ：部材の実効温度差（℃）
　K_t ：温度ムーブメントの低減率

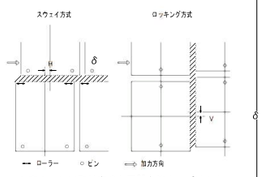
② ガラスまわり目地
ガラスまわり目地のムーブメントはせん断方向であり、（４．２）式で算定する。
高さ方向　$\delta_h = h\ (\alpha_s \cdot \Delta T_s - \alpha \cdot \Delta_s T)$
幅方向　$\delta_w = \frac{w}{2}(\alpha_s \cdot \Delta T_s - \alpha \cdot \Delta_s T)$
コーナー部　$\delta_t = \sqrt{\frac{2}{h}\delta_t + \frac{2}{w}\delta}$ ・・・・・・・・・・（４．２）
ここに　δ_t ：温度ムーブメント（mm）
　δ_h，δ_w：高さ方向・幅方向のムーブメント（mm）
　α，α：サッシおよびガラスの膨張係数（／℃）
　h，w：ガラスの高さ・幅（mm）
　ΔT_s，ΔT_s：サッシおよびガラスの実効温度差（℃）

層間変位ムーブメントの求め方
スライドおよびロッキング方式の場合は（４．３）式、（４．４）式によりムーブメントが算定でき、その向きは両者ともせん断方向である
スウェイ方式　$\delta_t = R \cdot h_p\ (1-K_t) = \Delta\ (1-K_t)$ ・・・・・・・・・・・・（４．３）
ロッキング方式　$\delta_t = R \cdot w_p\ (1-K_t) = \Delta\ (w_p - h_p)\ (1-K_t)$ ・・・・・・（４．４）
ここに　δ_t，δ_w：横目地・縦目地のムーブメント（mm）
　R：層間変形角（ｒａｄ）
　Δ：層間変位（mm）
　h_p，w_p：パネルの高さ（または階高）・幅（mm）
　K_t ：層間変位ムーブメントの低減率

設計目地幅Wの算定
ワーキングジョイントではシーリング材がムーブメントに追従するためには、設計目地幅が下式を満足しなければならない
$W \geqq \frac{\delta}{\varepsilon} \times 100 + W_e$
ここに　W：設計目地幅（mm）
　δ：ムーブメント（mm）
　ε：シーリング材の設計伸縮率・設計せん断変形率（%）
　W_e ：目地幅の施工誤差（mm）

部材の線膨張係数α（×10^{-6}／℃）

形状	種類		線膨張係数
形材	アルミ		２３
パネル	金属	アルミ板	２３
		アルミ鋳物	２３
		ステンレス	１７
		鋼	１０
	コンクリート		１０
	ＡＬＣ		７
	ガラス		９



カーテンウォールの取付方法と層間変位ムーブメント

部材の実効温度差ΔT（℃）

形状	構成部材 種類		表面の色調 *2	外壁	笠木
形材	アルミ		明色	５５	６５
			暗色	７０	８０
パネル	金属	アルミ板	明色	５５	６５
			暗色	７０	８０
		アルミ鋳物	明色	５０	５５
			暗色	６５	７０
		ステンレス	明色	５５	６５
			暗色	７０	８０
		鋼	明色	５５	６５
			暗色	７０	８０
	コンクリート		明色	３５	４０
			暗色	４０	４５
	ＡＬＣ		明色	４０	−
			暗色	４５	−
	ガラス	一般	−	４５	−
		特殊 *1	−	５５	−

注）　＊１：熱線吸収・熱線反射などの熱吸収の大きい板ガラス
　＊２：明色：金属素地光沢を有するもの、および明度が比較的白色に近いもの
　：暗色：明度が比較的黒色に近いもの

温度ムーブメントの低減率K

形状	種類		外壁	笠木
形材	アルミ		０．２	０．１
パネル	金属	アルミ板	０．３	０．１
		アルミ鋳物	０．２	０．１
		ステンレス	０．３	０．１
		鋼	０．３	０．１
	コンクリート		０．１	０．１
	ＡＬＣ		０．１	−
	ガラス		０．１	−

層間変位ムーブメントの低減率K

h_p ／w_p	スウェイ方式	ロッキング方式
２以上	０．１	０．１
２未満・０．５以上		０．２
０．５未満		０．３

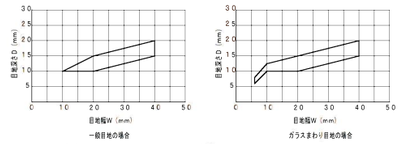
注）　ＰＣカーテンウォールの場合
　h_p：パネルの高さ
　w_p：パネルの幅

シーリング材の設計伸縮率・設計せん断変形率 ε　の標準値（%）

シーリング材の種類 主成分・硬化機構	記号	伸縮 M1 *1	伸縮 M2	せん断 M1 *2 *1	せん断 M2	備考 *3 *2（耐久性の区分）
２成分型シリコーン系	ＳＲ−２	20	30	30	60	10030
１成分型シリコーン系（低モジュラス）	SR−1　LM	15	30	30	60	10030, 9030
１成分型シリコーン系（高モジュラス）	SR−1　HM	(10)	(15)	(20)	(30)	9030 G
２成分型変成シリコーン系）	ＭＳ−２	20	30	30	60	9030
１成分型変成シリコーン系	ＭＳ−１	10	15	15	30	9030, 8020
２成分型ポリサルファイド系	ＰＳ−２	15 10	30 20	30 20	60 40	9030 8020
１成分型ポリサルファイド系	ＰＳ−１	7	10	10	20	8020
１成分型変成ポリサルファイド系	ＭＰ−１	7	10	10	20	9030
２成分型アクリルウレタン系	ＵＡ−２	10	20	20	40	9030
２成分型ポリウレタン系	ＰＵ−２	10	20	20	40	8020
１成分型ポリウレタン系	ＰＵ−１	10	20	20	40	9030, 8020
２成分型アクリル系	ＡＣ−Ｅ	7	10	10	20	7020
備考	注）＊１：温度ムーブメントの場合 ＊２：風・地震による層間変位ムーブメントの場合 ＊３：市販品のＪＩＳ　Ａ５７５８の耐久性区分 （　）：ガラスまわり目地の場合					

カーテン部材取付け時の目地幅の許容差W　の標準値（mm）

項目	金属製カーテンウォール	アルミニウム合金鋳物製カーテンウォール	プレキャストコンクリートカーテンウォール
目地幅の許容差	±３	±５	±５



ワーキングジョイントの目地深さＤの許容範囲

・目地幅Wと深さ（厚さ）Ｄは下記による

$\frac{1}{2} \leqq \frac{D}{W} \leqq 1.0$

但し、W≧１５mmの場合、主として　$\frac{1}{2}$ W＜ D $\frac{2}{3}$ W （D≧１０mm）

１０mm ≦W＜１５mmの場合、主として$\frac{2}{3}$ W＜D≦Wをとる

加東市役所
〒673-1493 兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301(代表)

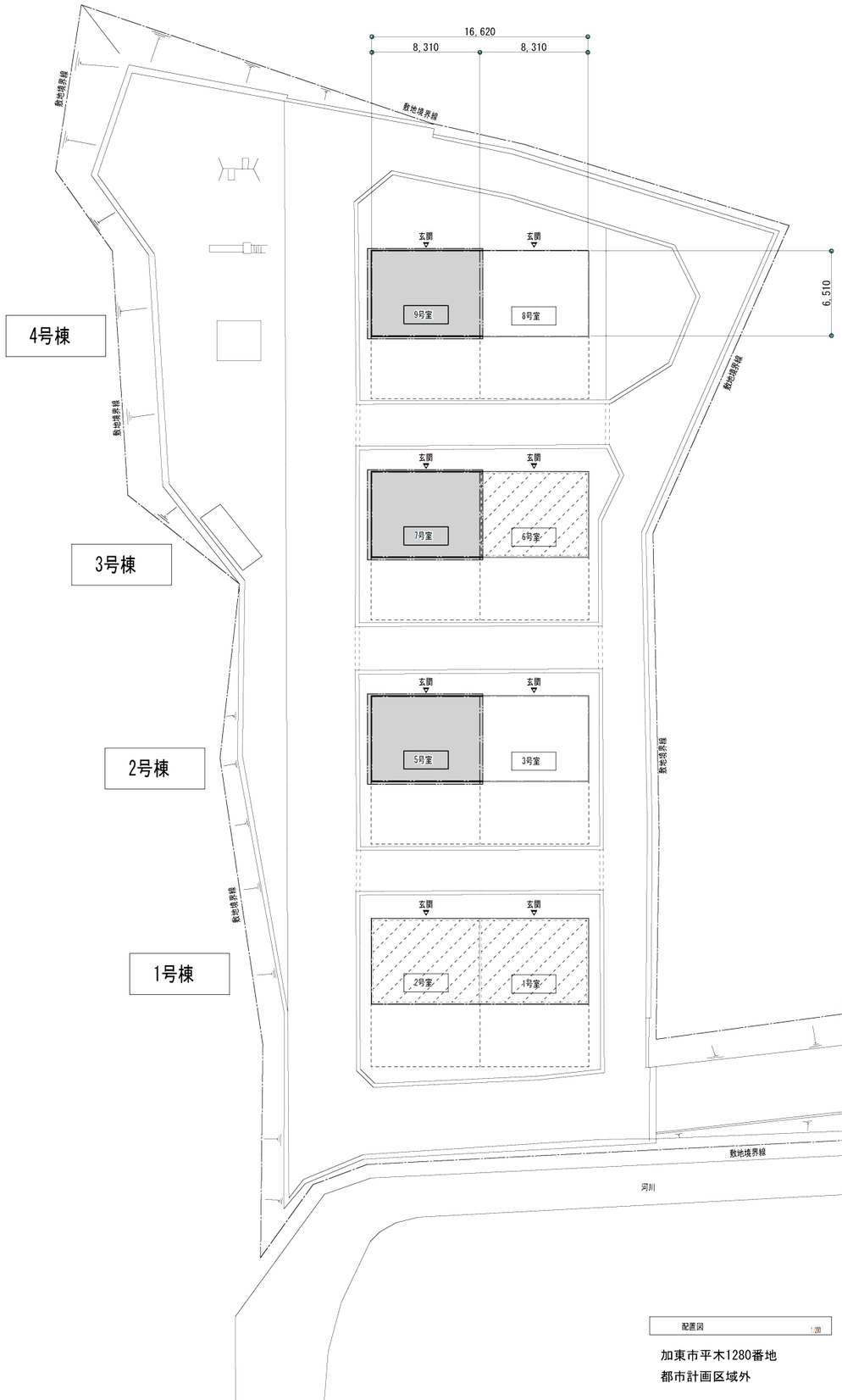
令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図
シーリング特記仕様書

作図年月日	縮尺	承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
'22.8	A３縮小 - -						22023	A − 011

附近見取図

加東市平木1280番地

加東市役所 〒673-1488 兵庫県加東市社50番地 TEL：0795-42-3301(代表)	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図	作図年月日	縮尺		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
	附近見取図	'22. 8	A3縮小 - -							22023	A － 012



年 度	種 別	棟 数	戸 数	1戸当たり床面積	延床面積	敷地面積
S.54	ML-9070	4	8	54.10㎡	432.80㎡	3240.00㎡

工 事 範 囲		
1号棟	1号室	ユニットバス改修（入居者有り）
	2号室	ユニットバス改修（入居者有り）
2号棟	3号室	※工事対象外
	5号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）
3号棟	6号室	ユニットバス改修（入居者有り）
	7号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）
4号棟	8号室	※工事対象外
	9号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）

配置図 1/200

加東市平木1280番地
都市計画区域外

加 東 市 役 所
〒673-1493 兵庫県加東市社50番地 TEL：0795-42-3301(代表)

令和4年度 市営住宅鴨川団地長寿命化 工事設計図

配置図

作図年月日 '22.8

縮尺 A3縮小 1/200 1/400

承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
					22023	A － 013

外部仕上表

屋根	粘菓粒瓦葺き	ポーチ・テラス	モルタル金ゴテ仕上	建具	アルミサッシ
軒天	大平板 t=5 素地 小屋裏換気孔、有孔石綿板450×450（1戸当たり 4箇所）	樋	軒樋 塩ビ製 W105 竪樋 塩ビ製 55φ		
外壁	吹付 組立目地コーキング 矢切部モルタル塗 吹付（木片セメント板下地）	塗装	鉄部 OP塗	スロープ	コンクリート刷毛引き仕上げ t=120 砕石 t=120 細目ノンスリップグレーチング コンクリート金ゴテ仕上 t=120 砕石 t=120
腰	コンクリート打放し 床下換気孔 鋳鉄製 300×150			プロパン控え壁	CB幅 縦筋D10@400 横筋D10@200 天端 モルタル金ゴテ押え t=20 コンクリート布基礎

内部仕上表

注）内部仕上げ材については、全てF☆☆☆☆を使用の事。

階	室名		床	巾木	巾木H	壁	天井	廻り縁	天井H	建築工事	機械・電気設備工事	その他改修工事	室名		階
1階	玄関	改修前	モルタル金ゴテ仕上	モルタル金ゴテ仕上		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-505) 一般用天井パネル プリント合板 t=4		2,650				改修前	玄関	1階
		改修後	既設のまま	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,650		LED照明新設		改修後		
	K・D	改修前	(KP-412) 仕上げ用床パネル t=50 塩ビフロアー合板 t=9.0	木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-701) 一般用天井パネル アクリル樹脂		2,350	流し台 配管パック共撤去処分 換気扇 清掃	給排水 撤去処分		改修前	K・D	
		改修後	根太組の上ラワン合板 t=12の上、クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り PB t=9.5捨て貼りの上 化粧ケイカル板 t=6	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300	流し台、ガス台 新設 引き戸改修 配管パック 新設	LED照明新設 流し元灯		改修後		
	浴室	改修前	モルタル金ゴテ仕上 土間コン撤去処分、浴槽、給湯機撤去処分	モルタル金ゴテ仕上		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-701) 間仕切壁パネル アクリル樹脂軽量亜鉛メッキ鋼板	(OP-701) 一般用天井パネル アクリル樹脂		——		給排水 撤去処分		改修前	浴室	
		改修後	土間コン t=120 防湿シート t=0.15 砕石 t=120	ユニットバス 1116 新設 BW1116 EH勝手		UXL同等以上					給湯機		改修後		
	便所	改修前	(KP-412) 仕上げ用床パネル t=50 塩ビフロアー合板 t=9.0 洋便器 脱着	木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-505) 一般用天井パネル プリント合板 t=4		2,350				改修前	便所	
		改修後	クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 化粧ケイカル板 t=6	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300	ドア改修	LED照明新設		改修後		
	洗面所ホール	改修前	(KP-412) 仕上げ用床パネル t=50 塩ビフロアー合板 t=9.0	木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-505) 一般用天井パネル プリント合板 t=4		2,350	BL洗面器ユニット（置き型） 撤去処分	給排水 撤去処分		改修前	洗面所ホール	
		改修後	クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 化粧ケイカル板 t=6	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300	洗面化粧台新設、洗濯パン新設	LED照明新設		改修後		
	和室① ↓ 洋室①	改修前	(FP-107) タタミ敷 基準階用タタミ下床パネル t=45 ラワン合板 t=9.0 タタミ撤去処分	タタミ寄せ 木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-508) 一般用天井パネル ラミ天合板 t=2.7		2,300				改修前	和室① ↓ 洋室①	
		改修後	根太組の上ラワン合板 t=12の上、クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 化粧ケイカル板 t=6	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300				改修後		
	和室② ↓ 洋室②	改修前	(FP-107) タタミ敷 基準階用タタミ下床パネル t=45 ラワン合板 t=9.0 タタミ撤去処分	タタミ寄せ 木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-508) 一般用天井パネル ラミ天合板 t=2.7		2,300				改修前	和室② ↓ 洋室②	
		改修後	根太組の上ラワン合板 t=12の上、クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		PB t=9.5捨て貼りの上 化粧ケイカル板 t=6	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300				改修後		
	和室③ ↓ 洋室③	改修前	(FP-107) タタミ敷 基準階用タタミ下床パネル t=45 ラワン合板 t=9.0 タタミ撤去処分	タタミ寄せ 木製		(W) 軽体廻り壁パネル t=27 (P-555) 間仕切壁パネル プリント合板 t=4	(OP-508) 一般用天井パネル ラミ天合板 t=2.7		2,300				改修前	和室③ ↓ 洋室③	
		改修後	根太組の上ラワン合板 t=12の上、クッションフロア貼り t=1.8	既設のまま		ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り	ラワン合板 t=5.5捨て貼りの上 ビニルクロス貼り		2,300				改修後		
	押入 ※劣化部のみ改修	改修前	(SP-110) 押入、床、中段パネル t=35 ラワン合板 t=4	雑巾摺 塩ビ製		(SW) スタイロ入軽体廻り壁パネル t=27 (P-110) 間仕切壁パネル ラワン合板 t=4	(OP-100) 一般用天井パネル ラワン合板 t=2.5		2,300	中段（パネル一般）			改修前	押入 ※劣化部のみ改修	
		改修後	既設のまま	既設のまま		ラワン合板 t=5.5貼り	既設のまま		2,300				改修後		

加東市役所
〒673-1493 兵庫県加東市社50番地 TEL：0795-42-3301(代表)

令和4年度 市営住宅鴨川団地長寿命化 工事設計図

仕上表

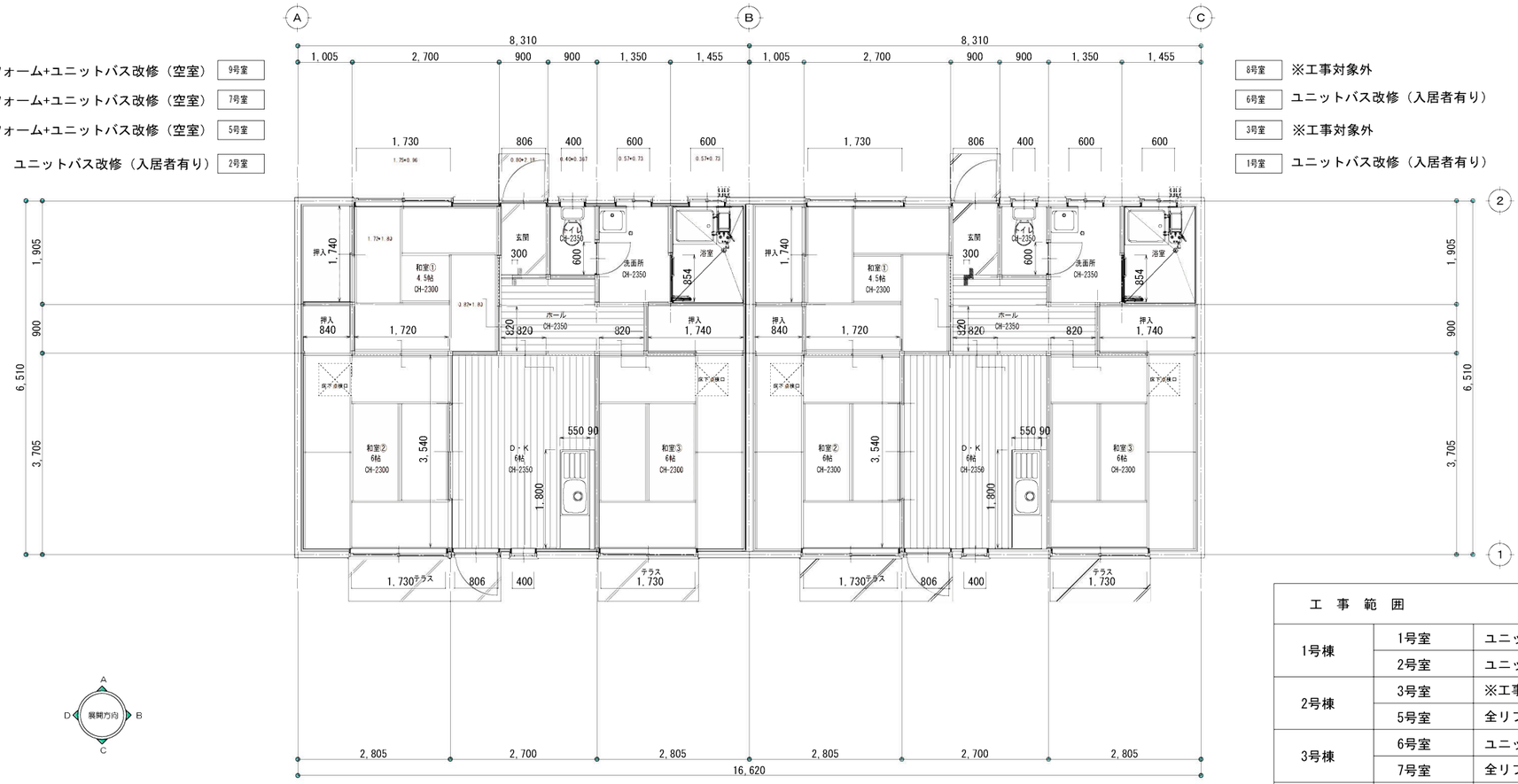
作図年月日 '22.8

縮尺 - A3縮小 -

承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
					22023	A － 014

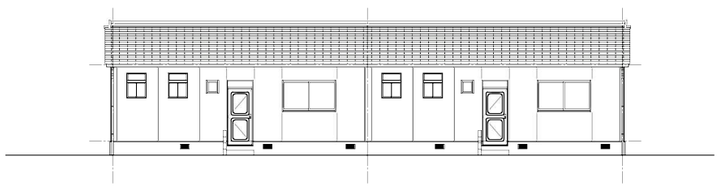
全リフォーム+ユニットバス改修（空室） 9号室
全リフォーム+ユニットバス改修（空室） 7号室
全リフォーム+ユニットバス改修（空室） 5号室
ユニットバス改修（入居者有り） 2号室

8号室 ※工事対象外
6号室 ユニットバス改修（入居者有り）
3号室 ※工事対象外
1号室 ユニットバス改修（入居者有り）

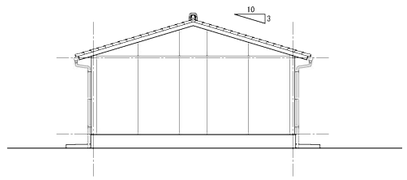


平面図 1/50

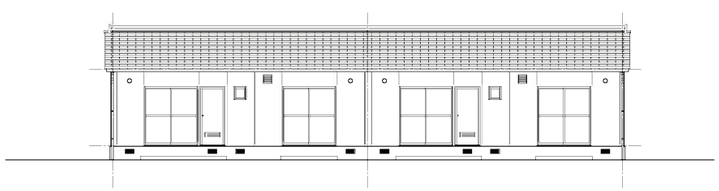
工　事　範　囲		
1号棟	1号室	ユニットバス改修（入居者有り）
	2号室	ユニットバス改修（入居者有り）
2号棟	3号室	※工事対象外
	5号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）
3号棟	6号室	ユニットバス改修（入居者有り）
	7号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）
4号棟	8号室	※工事対象外
	9号室	全リフォーム+ユニットバス改修（空室）



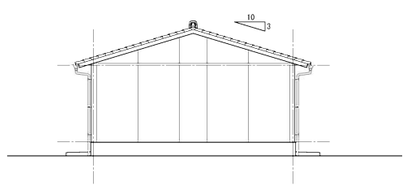
北　立面図 1/100



西　立面図 1/100



南　立面図 1/100

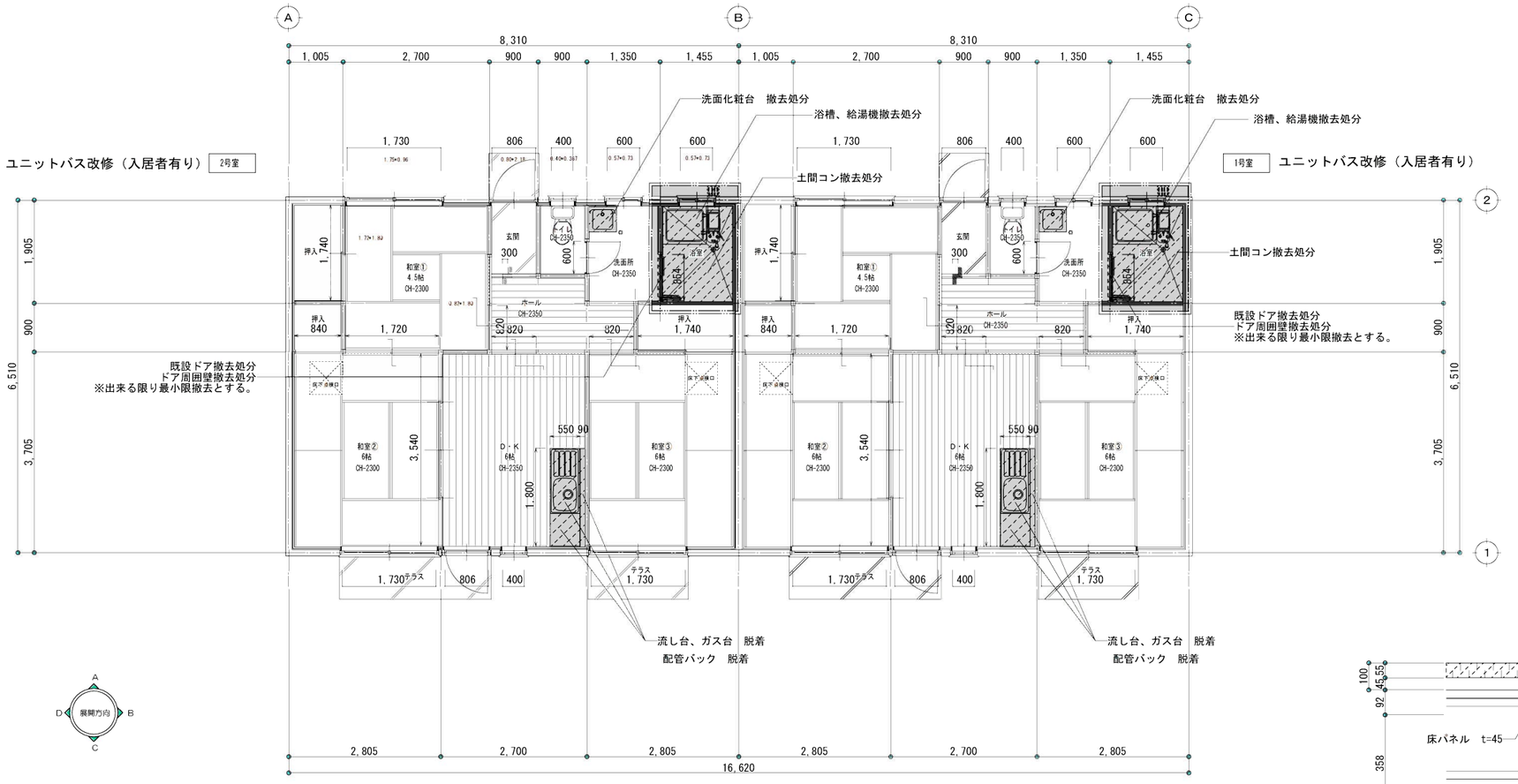


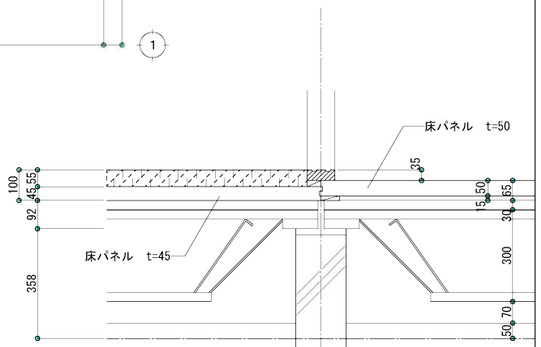
東　立面図 1/100

加東市役所
〒673-1488 兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301（代表）

令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図 平面図・立面図	作図年月日 '22. 8	縮尺 1/50　1/100 A3縮小　1/100　1/200		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号 22023	図面番号 A－　015

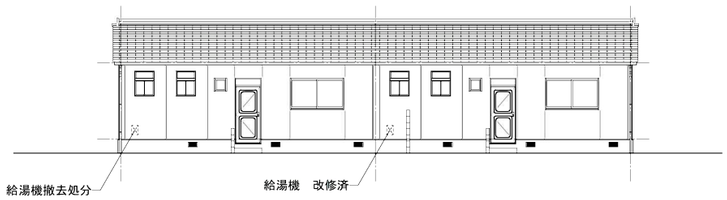
1号棟　改修前



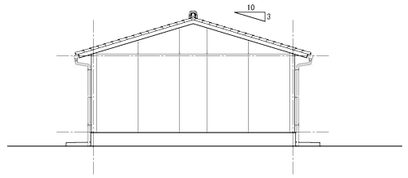


平面詳細図（改修前）　1/50

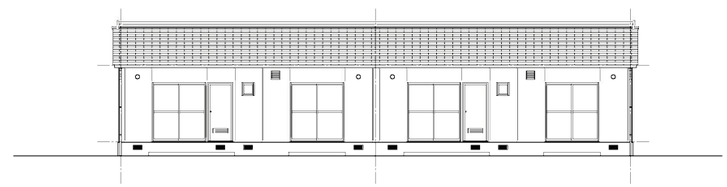
工事範囲を示す。



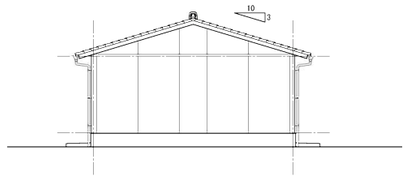
北　立面図　1/100



西　立面図　1/100

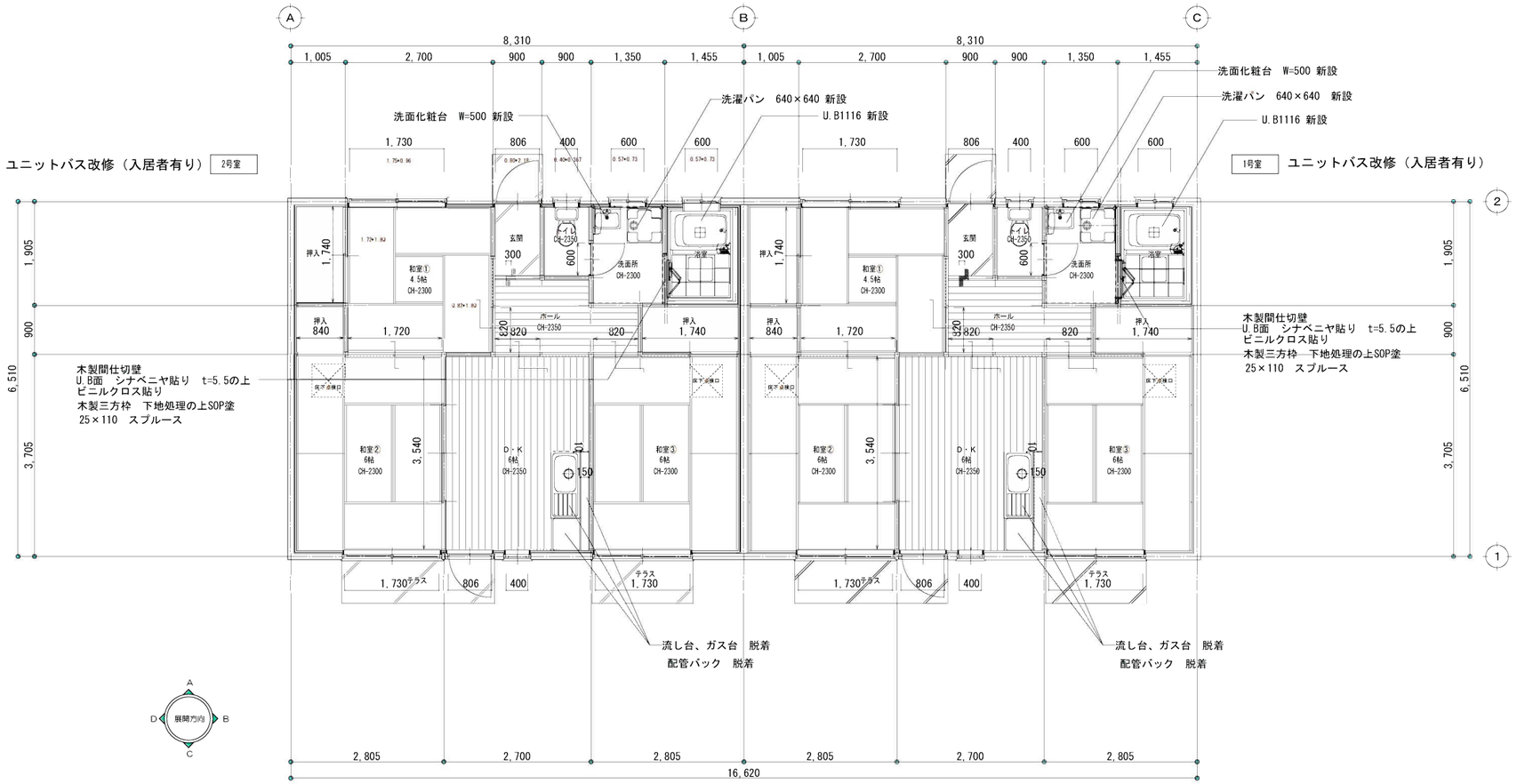


南　立面図　1/100

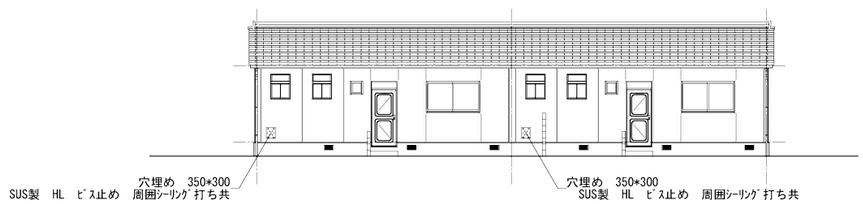


東　立面図　1/100

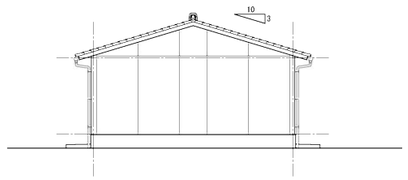
加東市役所 〒673-1493 兵庫県加東市社50番地 TEL：0795-42-3301(代表)	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図 1号棟　平面詳細図・立面図（改修前）	作図年月日 '22. 8	縮尺 1/50 1/100 A3縮小 1/100 1/200		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号 22023	図面番号 A－016



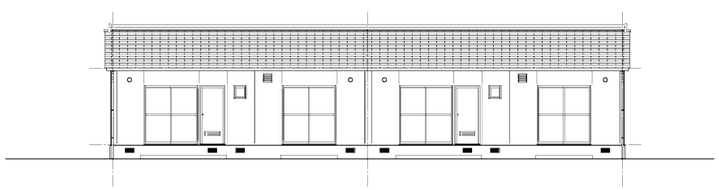
平面詳細図（改修後）　1/50



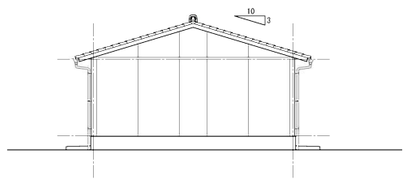
北　立面図　1/100



西　立面図　1/100



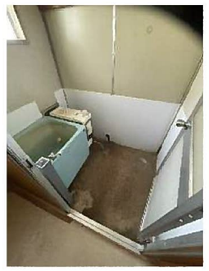
南　立面図　1/100



東　立面図　1/100

加東市役所 〒673-1493 兵庫県加東市社50番地 TEL：0795-42-3301(代表)	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図 1号棟　平面詳細図・立面図（改修後）	作図年月日 '22.8	縮尺 1/50 1/100 A3縮小 1/100 1/200		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号 22023	図面番号 A－017

2号棟　改修前



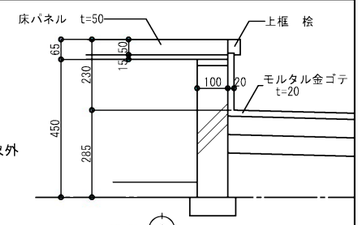
全リフォーム+ユニットバス改修（空室）　5号室

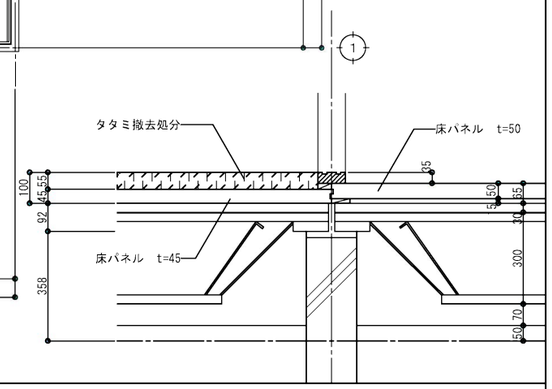
解体撤去範囲を示す。
床パネル撤去処分を示す。
設備配管のための撤去のため、影響する部分のみ撤去とする。

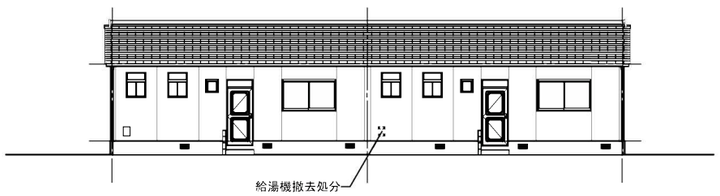
平面詳細図（改修前）　1/50

工事範囲を示す。

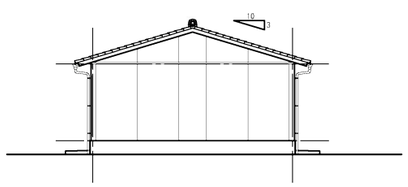
3号室　※工事対象外



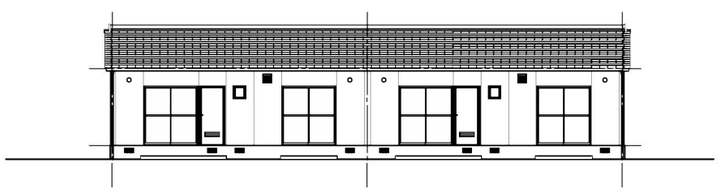




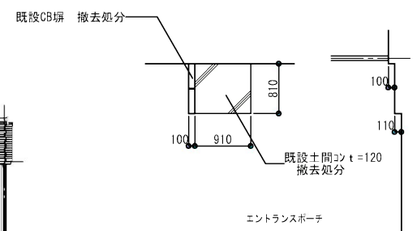
北　立面図　1/50

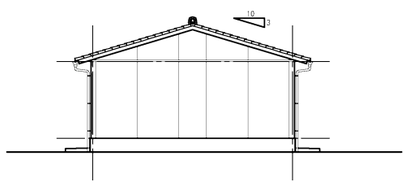


西　立面図　1/50



南　立面図　1/50



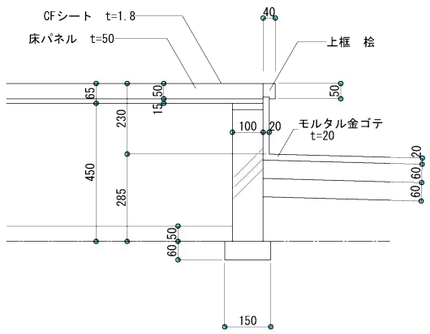


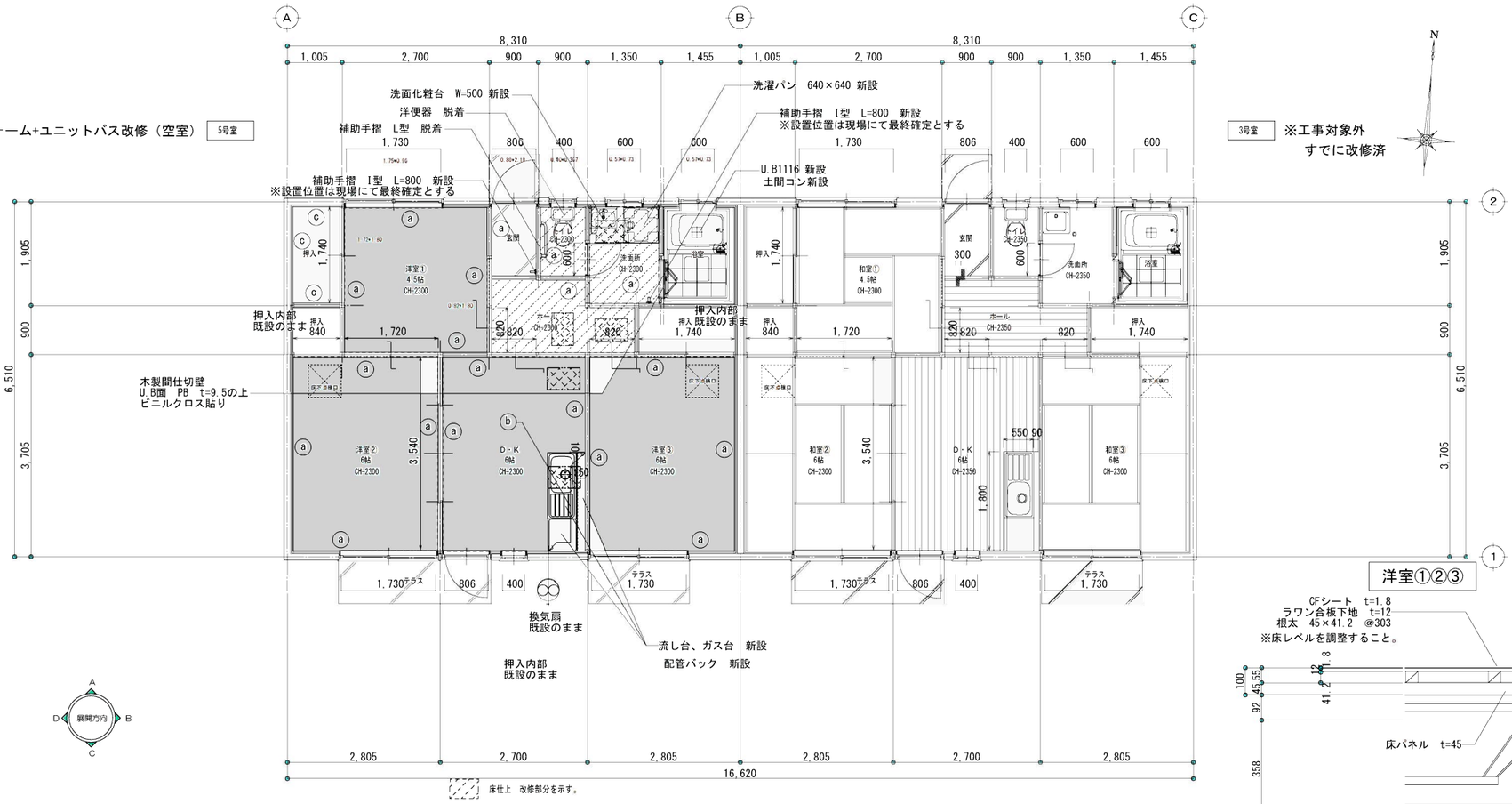
東　立面図　1/50

加東市役所 〒673-1493 兵庫県加東市社90番地 TEL：0795-42-3301(代表)	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化　工事設計図 2号棟　平面詳細図・立面図（改修前）	作図年月日 '22.8	縮尺 1/50 1/100 A3縮小 1/100 1/200		承認	承認	担当	担当	担当	物件番号 22023	図面番号 A－018

全リフォーム+ユニットバス改修（空室）　5号室

3号室　※工事対象外
すでに改修済





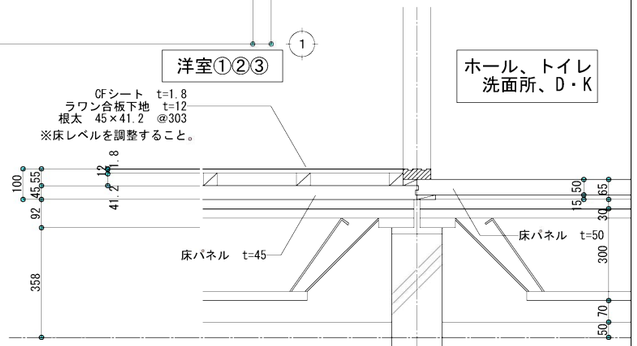
床仕上　改修部分を示す。

床仕上下地共　改修部分を示す。

床下地組、ラワン合板t=12の上
CFシート貼り　t=1.8

平面詳細図（改修後）　1:50

洋室①②③



ホール、トイレ
洗面所、D・K

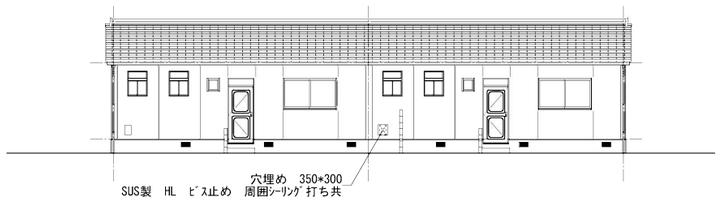
＜壁仕上＞

ⓐ PB　t=9.5捨て貼りの上　ビニルクロス貼り

ⓑ PB　t=9.5捨て貼りの上　化粧ケイカル板　t=6

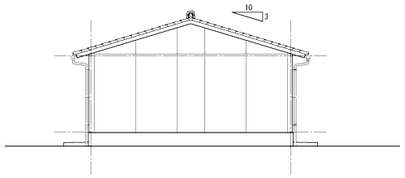
ⓒ ラワン合板　t=5.5貼り

※外部建具、内部建具は、既設のまま

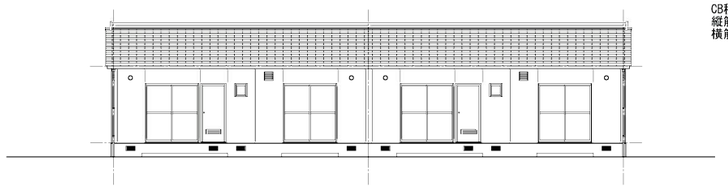


北　立面図　1:100

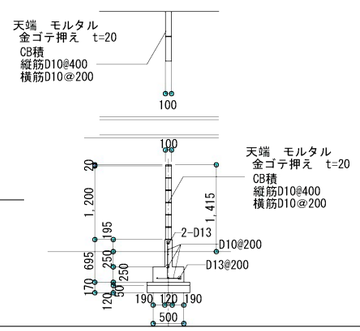
エントランスポーチ

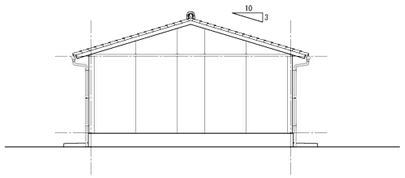


西　立面図　1:100



南　立面図　1:100





東　立面図　1:100

加東市役所	令和4年度　市営住宅鴨川団地長寿命化	工事設計図	作図年月日	縮尺	承認	承認	担当	担当	担当	物件番号	図面番号
〒673-1493　兵庫県加東市社50番地　TEL：0795-42-3301(代表)	2号棟　平面詳細図・立面図（改修後）		'22.8	1/50　1/100 A3縮小　1/100　1/200						22023	A－　019